

2. 豊橋市の現状

2-1. 豊橋市の概況

1) 位置

本市は、東は東京から約300km、西は大阪から約260km、名古屋から約70kmの距離にあり、日本のほぼ中央に位置しています。

本市は、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線、名鉄名古屋本線、東名高速道路、国道1号など、東西方向の主要な交通が集結する要衝の地にあります。また、北は南信方面、南は渥美半島方面への分岐点でもあります。

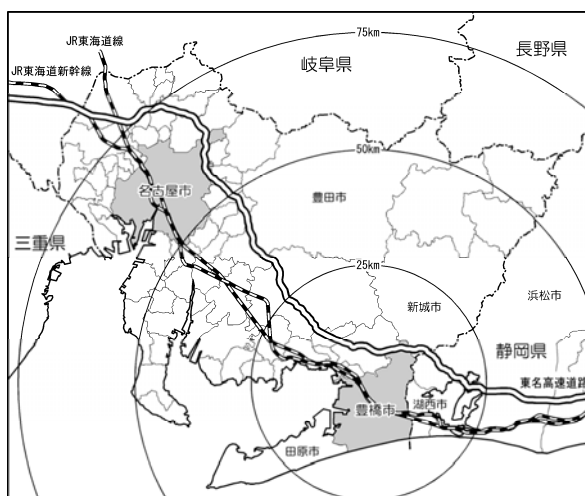


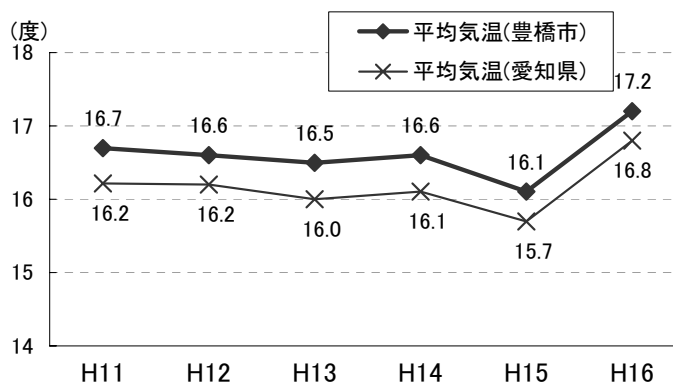
図2-1-1 豊橋市位置図 (平成18年3月現在)

2) 地形

本市の地形は概ね平坦であり、東部の山地（弓張山地）から西部の低地（三河湾）へと、ゆるやかに傾斜しています。北部から中央部は豊川沿いに豊橋平野が広がり、南部一帯は天伯台地と呼ばれる台地を形成し、太平洋岸は急な崖となっています。

3) 気象

本市の年間平均気温は16°C前後、年間の雨天日数は30~40日程度（平成11年~16年）であり、年間を通じて雨天が少なく温暖な気候です。



資料: 豊橋市統計書、愛知県統計年鑑
図2-1-2 平均気温の推移

4) 人口の動向

(1) 人口・世帯数

- 豊橋市の人口は、平成2年に33万8千人であったものが年々増加し、14年後の平成16年には推計で1.11倍の37万3千人に達しています。
- 世帯数も人口と同様に増加しており、平成2年に10万4千戸であったものが年々増加し、平成16年には推計で1.32倍の13万3千戸に達していますが、1世帯当りの平均世帯人員は3.3人から2.8人と減少しており、核家族化の進行が確認できます。
- 中心市街地の人口密度は依然として高くなっていますが、中心市街地の人口は減少傾向にあり、近郊部への分散傾向にあることが確認できます。

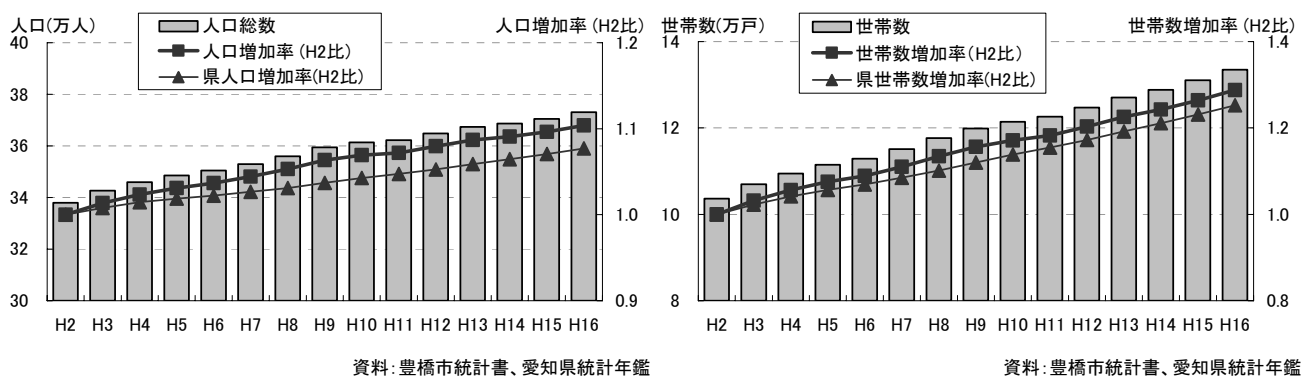


図2-1-3 人口と世帯数

表2-1-1 人口と世帯数

区分	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
人口総数(人)	337,982	342,609	345,920	348,502	350,391	352,982	355,965	359,411
人口増加率(H2比)	1.00	1.01	1.02	1.03	1.04	1.04	1.05	1.06
世帯数(戸)	103,668	106,987	109,481	111,459	112,881	115,075	117,612	119,862
世帯数増加率(H2比)	1.00	1.03	1.06	1.08	1.09	1.11	1.13	1.16
平均世帯人員(人/戸)	3.26	3.20	3.16	3.13	3.10	3.07	3.03	3.00

区分	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人口総数(人)	359,411	361,376	362,234	364,856	367,343	368,646	370,490	373,045
人口増加率(H2比)	1.06	1.07	1.07	1.08	1.09	1.09	1.10	1.10
世帯数(戸)	119,862	121,408	122,618	124,724	127,076	128,839	131,028	133,464
世帯数増加率(H2比)	1.16	1.17	1.18	1.20	1.23	1.24	1.26	1.29
平均世帯人員(人/戸)	3.00	2.98	2.95	2.93	2.89	2.86	2.83	2.80

資料: 豊橋市統計書

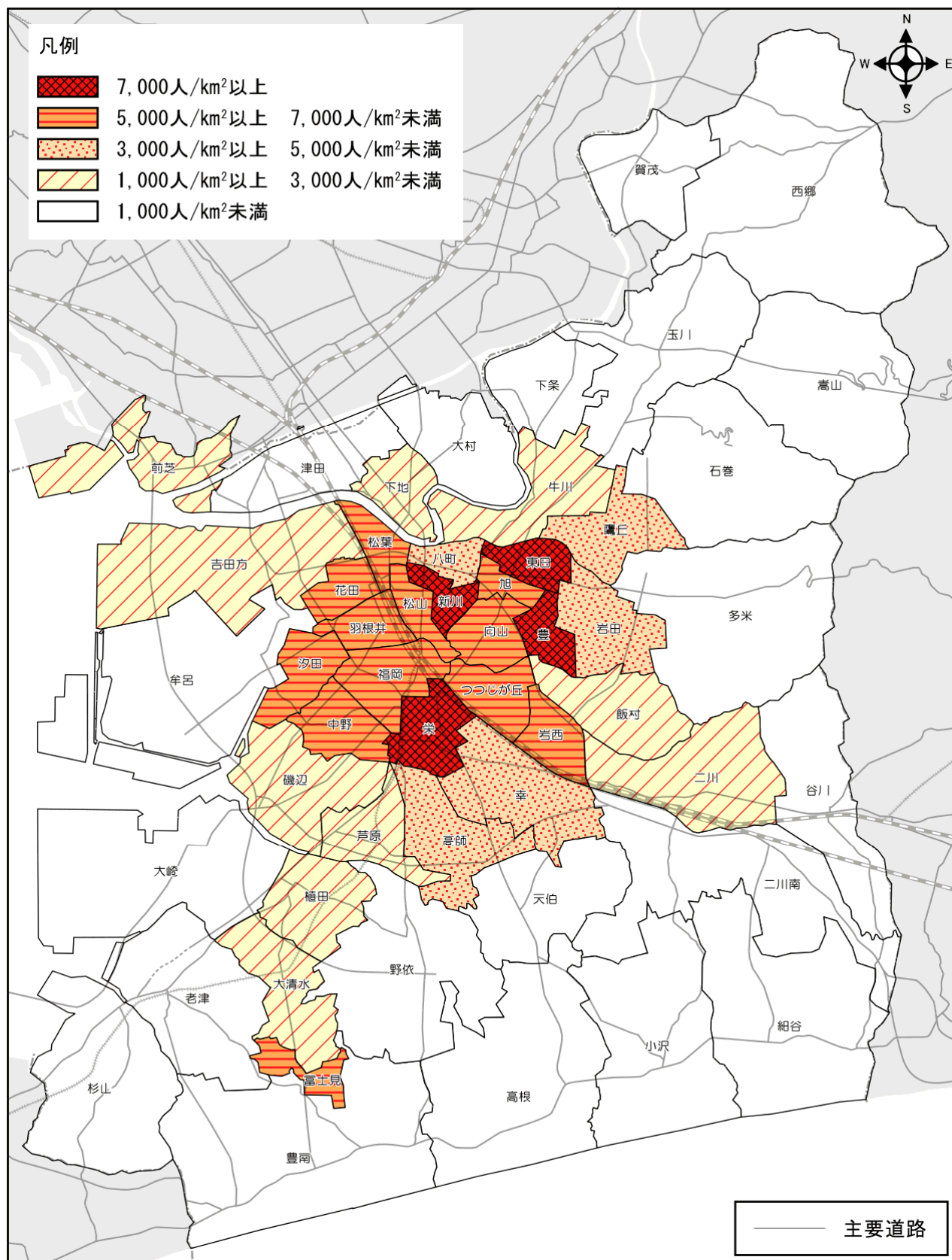


図2-1-4 小学校区別人口密度

資料：H12 国勢調査

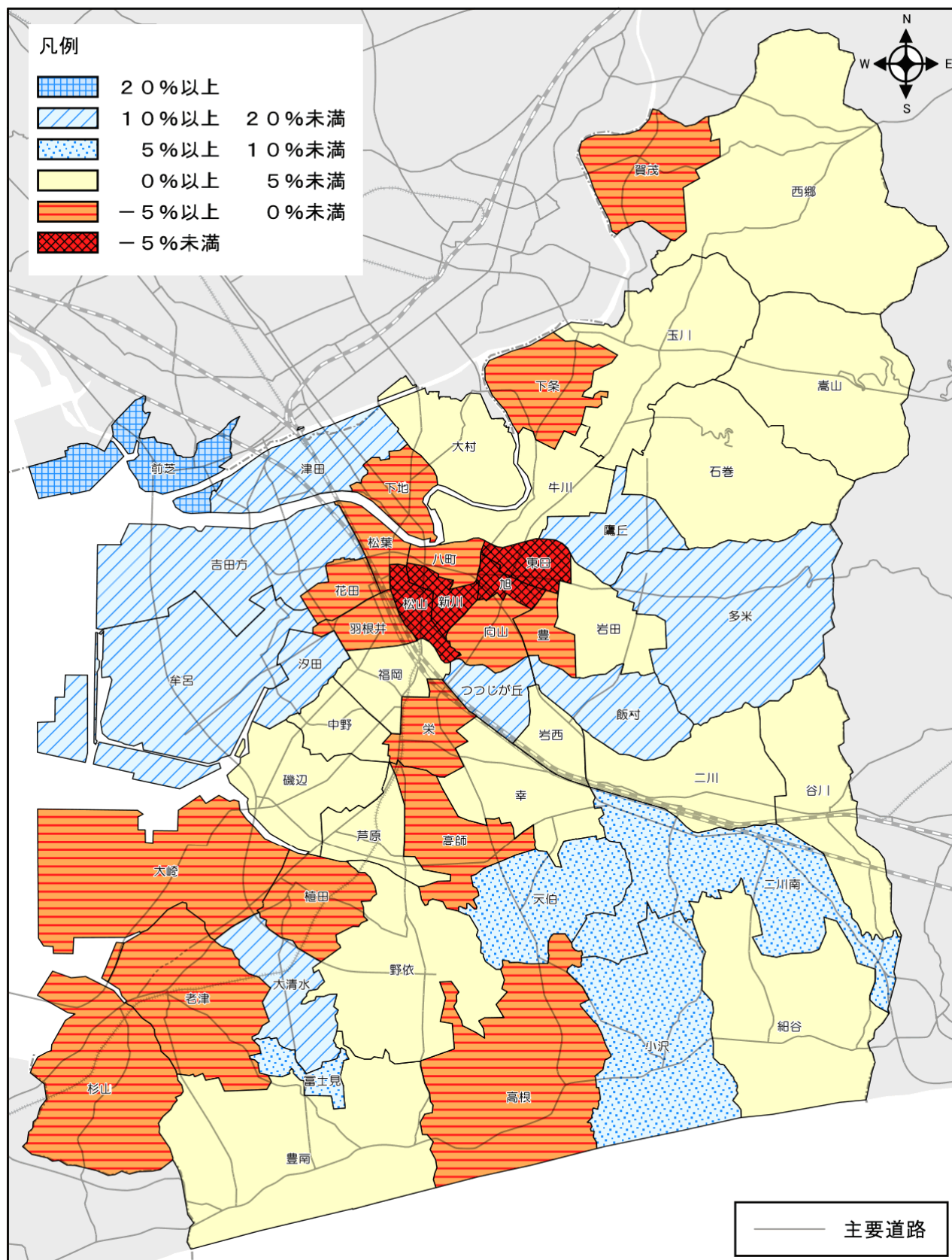
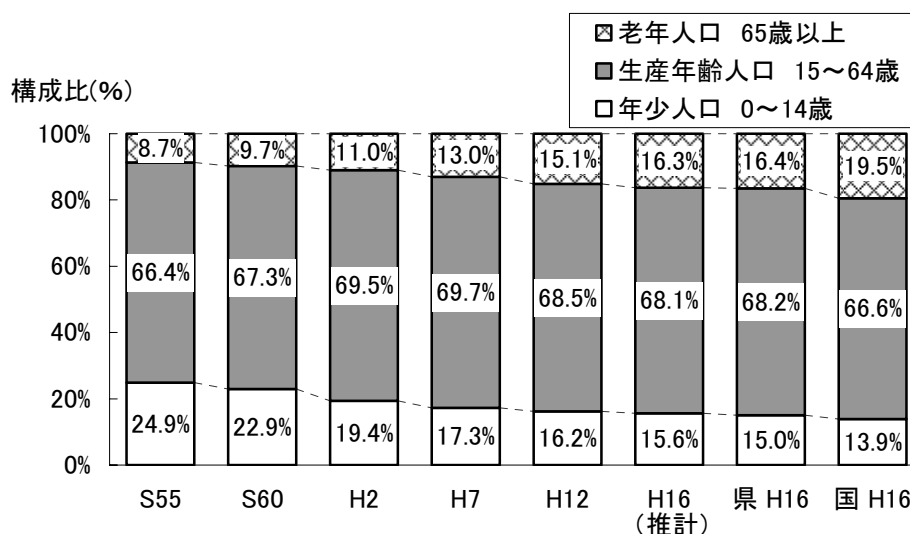


図2-1-5 小学校区別人口増減率（平成12年／平成7年）

資料：H12 国勢調査

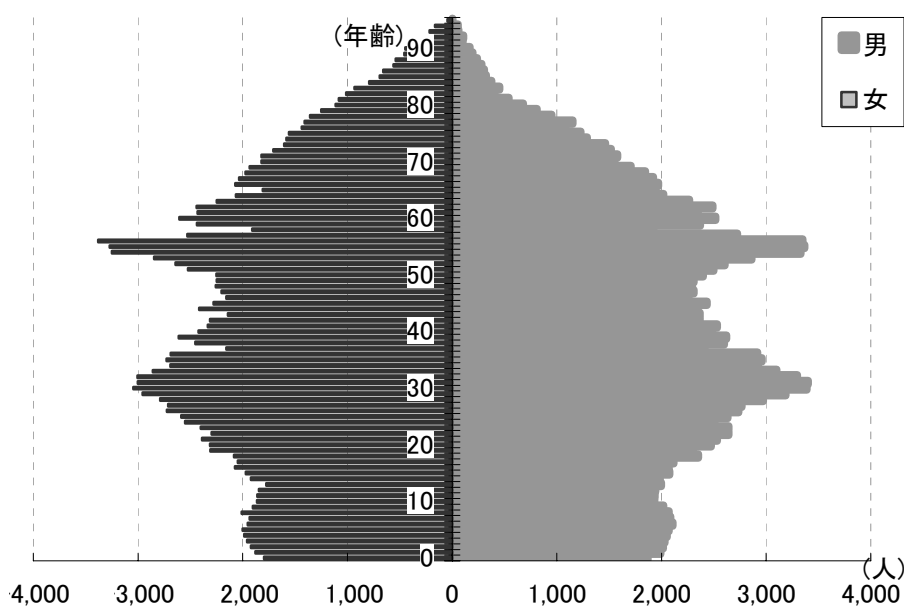
(2) 年齢階層別人口

- 年少人口比率は昭和 55 年の 24.9%から平成 16 年には 9.3 ポイント下がり、15.6%にまで低下しています。
- 生産年齢人口比率は平成 7 年の 69.7%をピークに平成 16 年には 1.6 ポイント下がり、68.1%に低下しています。
- 老年人口比率は年少人口比率とは反対に昭和 55 年の 8.7%から平成 16 年には 7.6 ポイント上がり、16.3%にまで上昇しており年少人口比率を上回っています。また、老年人口の比率は、中心部と郊外部において高くなっています。



資料: 豊橋市統計書、愛知県統計年鑑、統計局人口推計

図2-1-6 人口構成の推移



資料: 豊橋市統計書

図2-1-7 年齢・男女別人口 (平成 16 年 4 月 1 日)

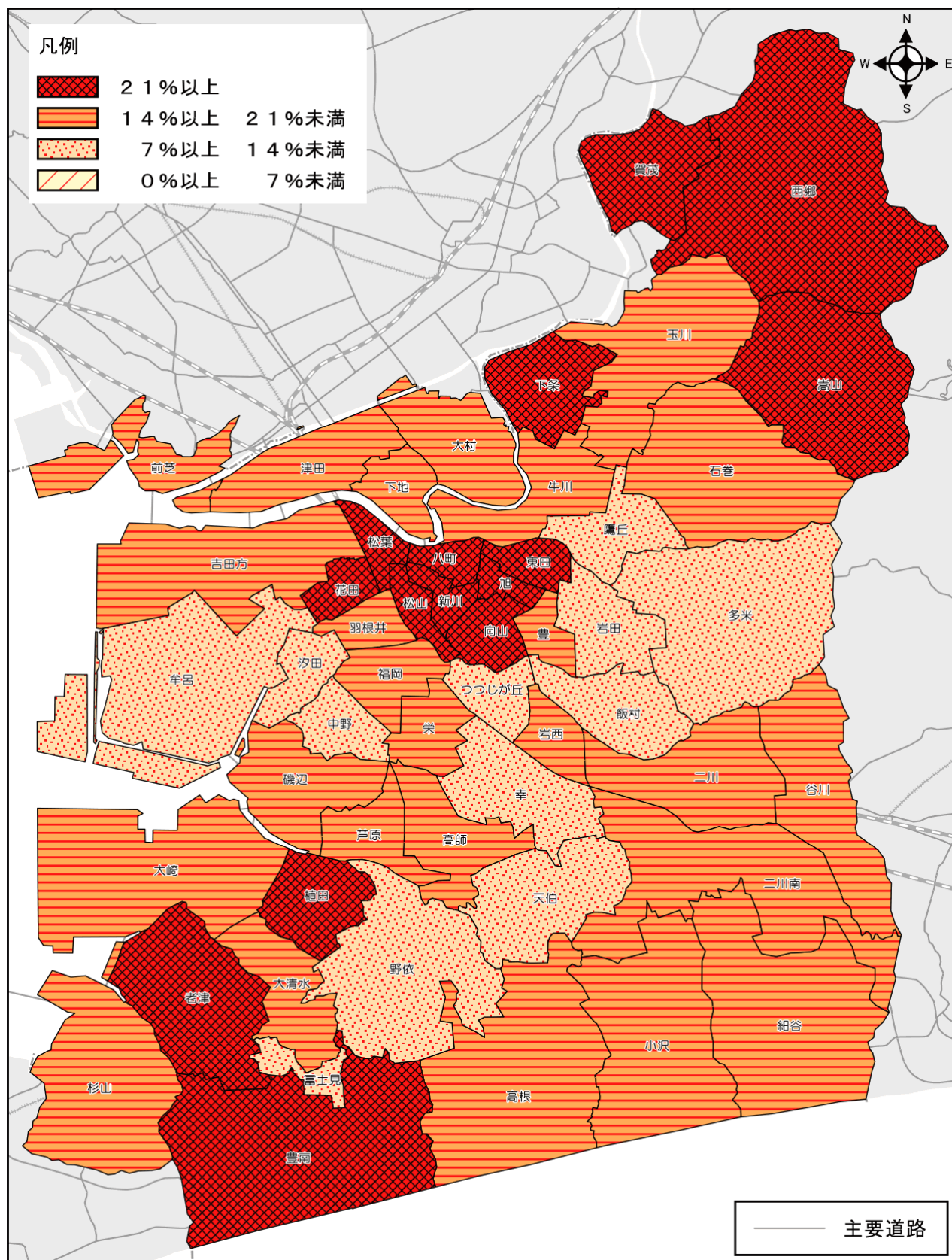


図2-1-8 小学校区別 老年人口比率（平成 17 年 4 月 1 日）

資料：行政課

(3) 人口動態

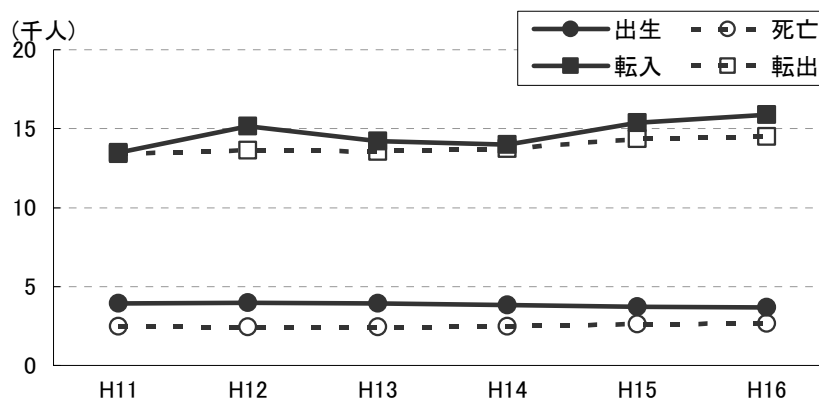
- 自然動態は増加していますが、出生数減少と死亡数増加（少子高齢化）に伴い、その増加数は低下傾向にあります。
- 社会動態は、変動が大きいものの、概ね増加傾向にあります。

表2-1-2 人口動態の推移

単位：人

区分			H11	H12	H13	H14	H15	H16
自然動態	増加数	総数	1,472	1,536	1,500	1,354	1,073	1,024
		男	700	695	709	614	485	498
		女	772	841	791	740	588	526
	出生	総数	3,944	3,985	3,930	3,815	3,712	3,674
		男	2,024	2,018	2,017	1,953	1,895	1,925
		女	1,920	1,967	1,913	1,862	1,817	1,749
	死亡	総数	2,472	2,449	2,430	2,461	2,639	2,650
		男	1,324	1,323	1,308	1,339	1,410	1,427
		女	1,148	1,126	1,122	1,122	1,229	1,223
社会動態	増加数	総数	90	1,593	630	281	869	1,372
		男	102	889	343	161	333	887
		女	△12	704	287	120	536	485
	転入	総数	13,491	15,151	14,208	13,982	15,389	15,900
		男	7,368	8,158	7,472	7,377	7,888	8,297
		女	6,123	6,993	6,736	6,605	7,501	7,603
	転出	総数	13,401	13,621	13,567	13,720	14,360	14,505
		男	7,245	7,301	7,109	7,205	7,430	7,425
		女	6,156	6,320	6,458	6,515	6,930	7,080
	その他		-	63	△11	19	△160	△23

資料：豊橋市統計書

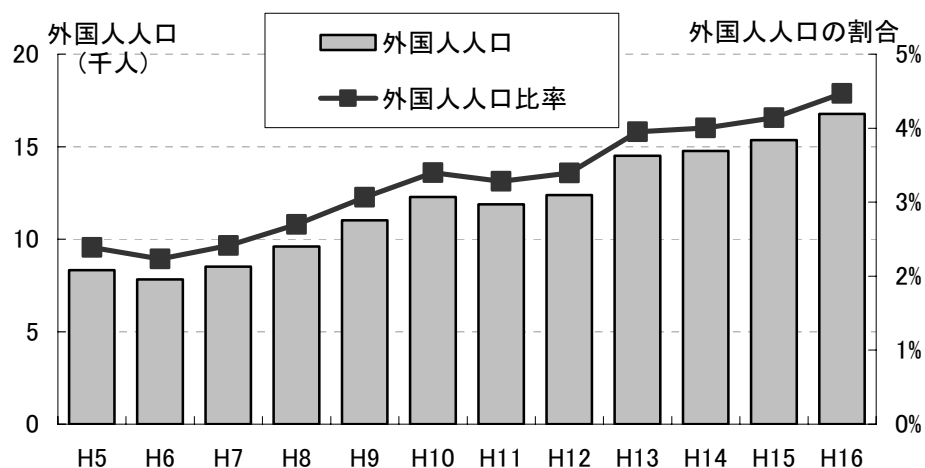


資料：豊橋市統計書

図2-1-9 人口動態の推移

(4) 外国人比率

- 豊橋市在住の外国人は約 15,000 人を超え、人口における外国人の比率は約 4.5% と多く、年々増加傾向にあります。
- 外国人へのアンケート結果から、公共交通機関を利用している人が多いことが確認できます。



資料: 豊橋市統計書

図2-1-10 外国人人口の推移

平成 13 年の外国人へのアンケート (回答数=34) 結果の概要

- ・ 道路や交通安全等のサインについては、約半数からわかりやすいと回答があった。
- ・ 自動車の渋滞発生に対しては、
「公共交通機関や自転車を利用すべき」 (回答数=10)
「道路をもっと広くすべき」 (回答数=11)
という回答が多かった。
- ・ 豊橋の歩道については、
「歩きにくい」 「歩きやすい」 が各 4 割。
- ・ 公共交通機関に対しては、利用している人は約 88%
「料金が高い」 「運行本数が少ない」といった回答が多くあった。

5) 産業の動向

(1) 就業人口

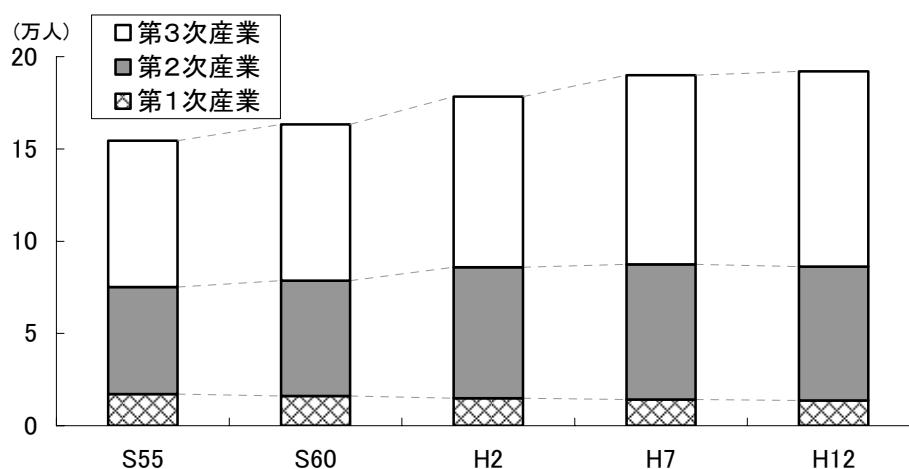
- 第1次産業就業人口は減少傾向にあり、平成12年には就業人口全体の7%に減少しています。
- 第2次産業就業人口はおおむね横ばい傾向にあり、就業人口全体の38%~40%で推移しています。
- 第3次産業就業人口は増加傾向にあり、平成12年には就業人口全体の55%に増加しています。
- 就業人口全体は、平成12年には昭和55年の1.24倍に増加しています。

表2-1-3 15歳以上就業人口の推移

単位:人

区分	S55	S60	H2	H7	H12
合計	154,379 (100%)	163,292 (100%)	178,361 (100%)	189,936 (100%)	192,053 (100%)
第1次産業	17,170 (11%)	16,094 (10%)	14,840 (8%)	14,217 (7%)	13,616 (7%)
第2次産業	58,043 (38%)	62,579 (38%)	71,014 (40%)	73,280 (39%)	72,574 (38%)
第3次産業	79,166 (51%)	84,619 (52%)	92,507 (52%)	102,439 (54%)	105,863 (55%)

資料:H12国勢調査



資料:H12 国勢調査

図2-1-11 15歳以上就業人口の推移

(2) 農業

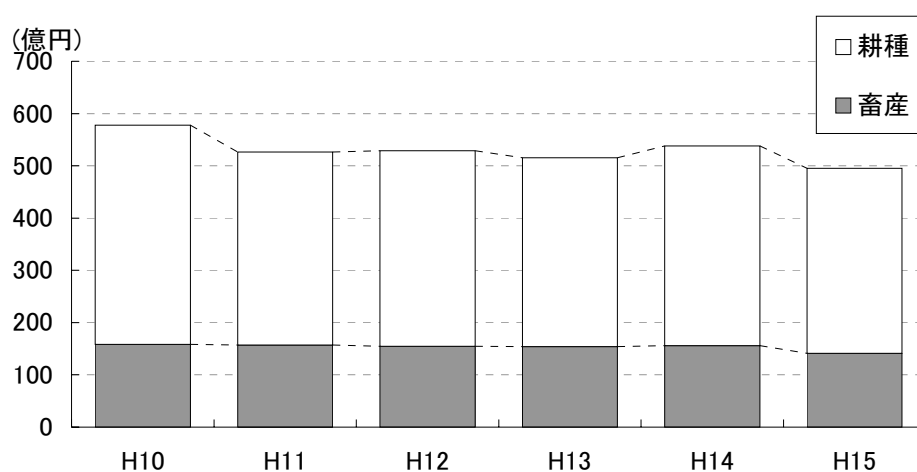
- 豊橋市の農業産出額は全国でも上位に位置しています。
- 近年の農業産出額は、おおむね 500 億円程度を維持しています。

表2-1-4 市町村別の農業産出額

(全国上位10市町村) 単位：億円

順位	都道府県	市町村	産出額
1	愛知県	豊橋市	496
2	北海道	別海町	443
3	愛知県	渥美町	387
4	愛知県	田原市	335
5	宮崎県	都城市	329
6	熊本県	熊本市	287
7	北海道	帯広市	276
8	静岡県	浜松市	266
9	静岡県	静岡市	249
10	北海道	音更町	240

資料：H15農林水産省統計



資料：東海農政局「愛知農林水産統計年報」

図2-1-12 農業産出額の推移

(3) 工業

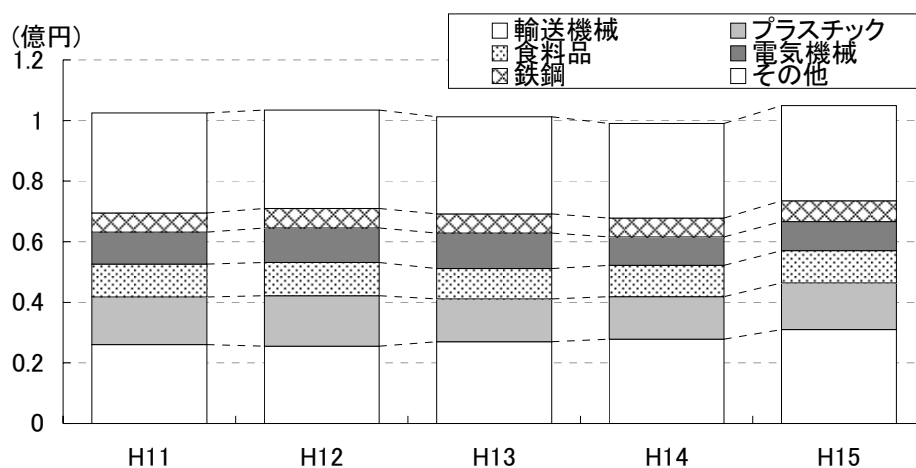
- 製造品出荷額等の内訳では、輸送機械が多くなっています。
- 平成11年から14年にかけて、製造品出荷額等、事業所数、および従業者数は減少傾向にありましたが、平成15年は増加に転じています。
- 従業員100人以上の大規模事業所および従業者数は、中心市街地周辺、三河港豊橋エリア周辺および二川方面などに多く分布しています。

表2-1-5 製造品出荷額等の推移

単位:万円

区分	H11	H12	H13	H14	H15
輸送機械	26,063,769	25,467,098	26,962,642	27,852,973	31,051,680
プラスチック	15,661,311	16,750,184	14,120,559	14,011,903	15,362,033
食料品	10,920,146	10,900,430	10,087,732	10,351,558	10,612,378
電気機械	10,517,002	11,394,461	11,685,768	9,324,061	9,572,525
鉄鋼	6,347,405	6,497,205	6,324,097	6,313,423	6,893,024
その他	32,984,656	32,410,891	32,077,852	31,167,599	31,440,566
総数	102,494,289	103,420,269	101,258,650	99,021,517	104,932,206

資料:豊橋市統計書



資料:豊橋市統計書

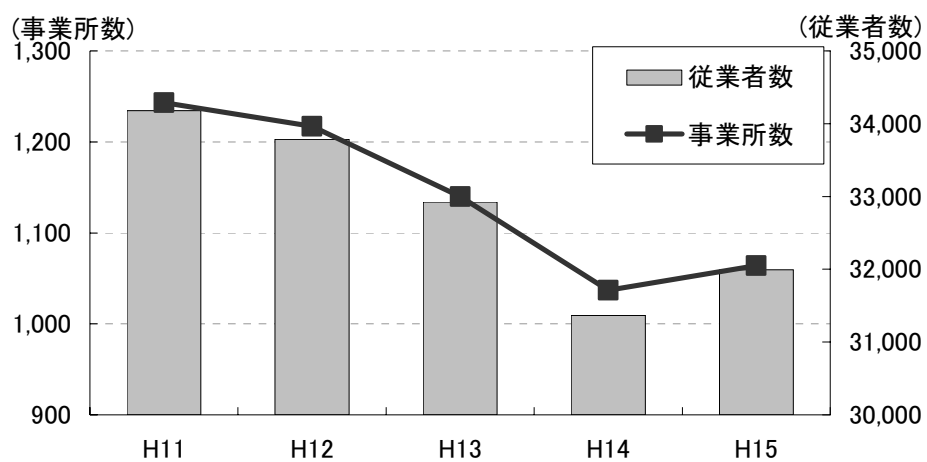
図2-1-13 製造品出荷額等の推移

表2-1-6 事業所数および従業者数の推移

単位:万円

区 分	H11	H12	H13	H14	H15
事業所数 (事業所)	1,243	1,217	1,140	1,037	1,064
従業者数 (人)	34,178	33,782	32,925	31,367	31,995

資料:豊橋市統計書



資料:豊橋市統計書

図2-1-14 事業所数および従業者数の推移

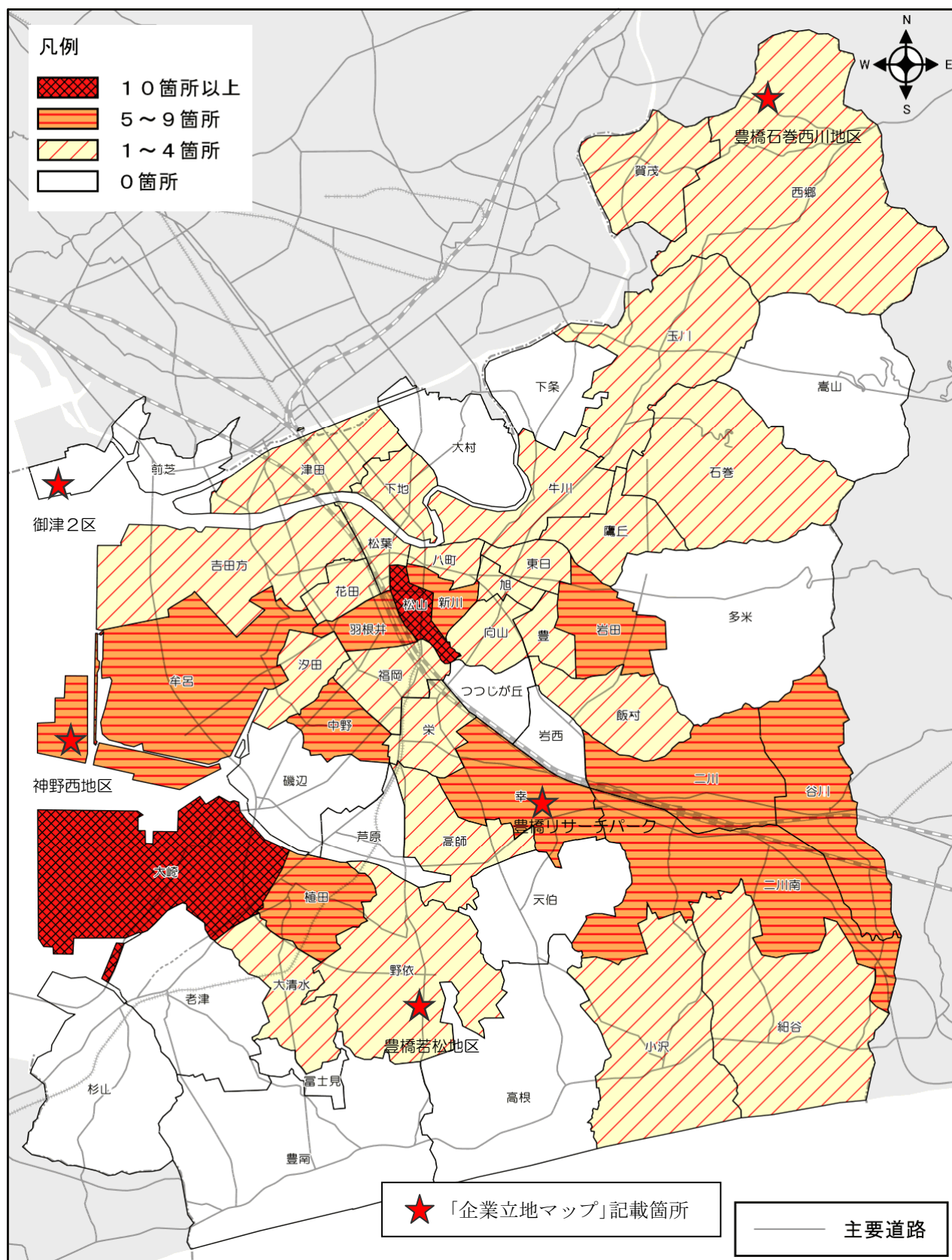


図2-1-15 小学校区別の大規模事業所数（従業員100人以上）

資料：H13 豊橋市事業所・企業統計調査

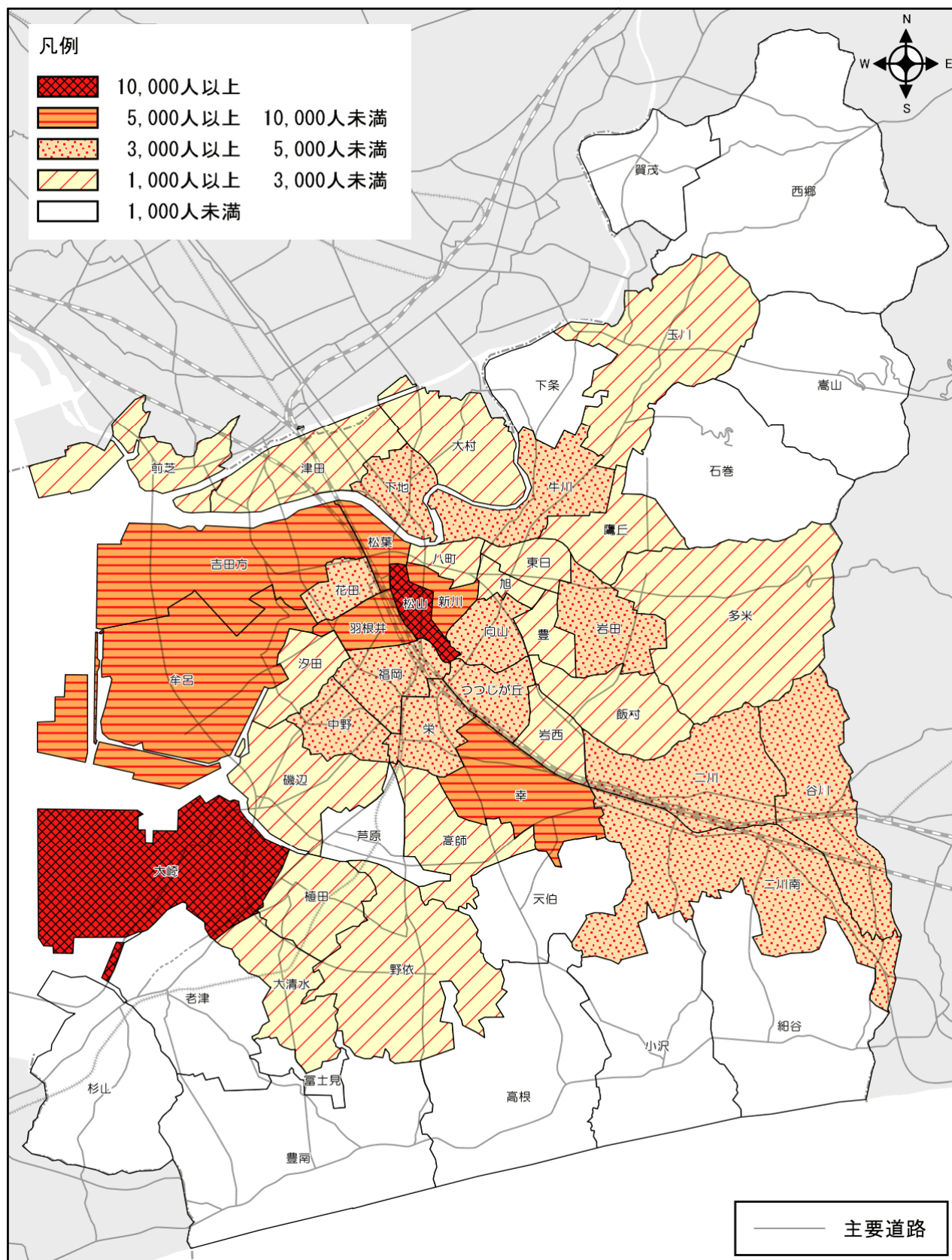


図2-1-16 小学校区別従業者数

資料：H13 豊橋市事業所・企業統計調査

(4) 商業など

- 全就業者における第3次産業就業人口の比率は増加傾向にありますが、近年の商品販売額はおおむね減少傾向にあります。
- 商店数は、中心市街地及び吉田方小学校区で多くなっています。
- 三河港（豊橋エリア）の海上出入貨物量は増加傾向にあります。
- 観光交流客数は、平成3年の392万人をピークに減少傾向にあり、平成15年は283万人（約3割減少）です。

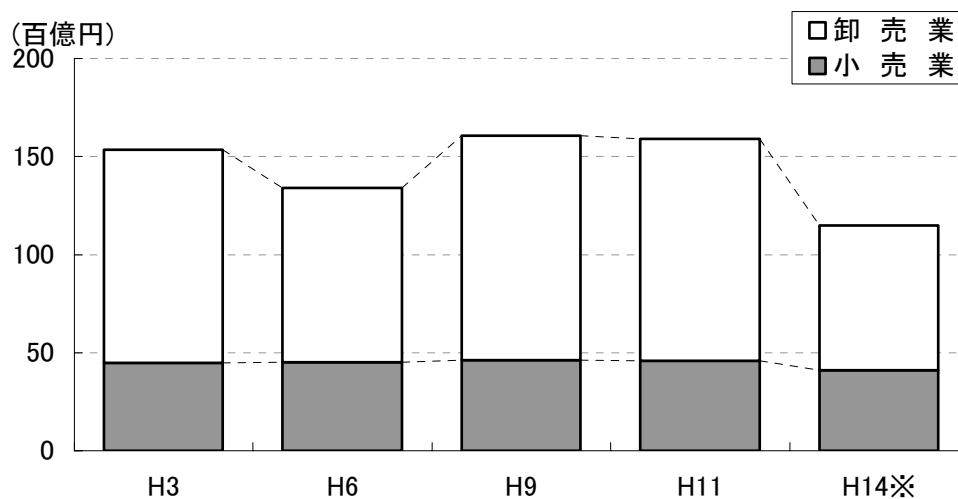
① 卸売業・小売業

表2-1-7 商品販売額の推移

単位:万円

区分	総数	卸売業	小売業
	年間商品販売額	年間商品販売額	年間商品販売額
H3	153,579,503	108,761,052	44,818,451
H6	133,872,912	88,914,489	44,958,423
H9	160,615,367	114,395,529	46,219,838
H11	158,990,826	113,089,267	45,901,559
H14	114,755,146	73,897,763	40,857,383

資料:豊橋市統計書



資料:豊橋市統計書

図2-1-17 商品販売額の推移

※ 平成14年から、産業分類の格付けが変更

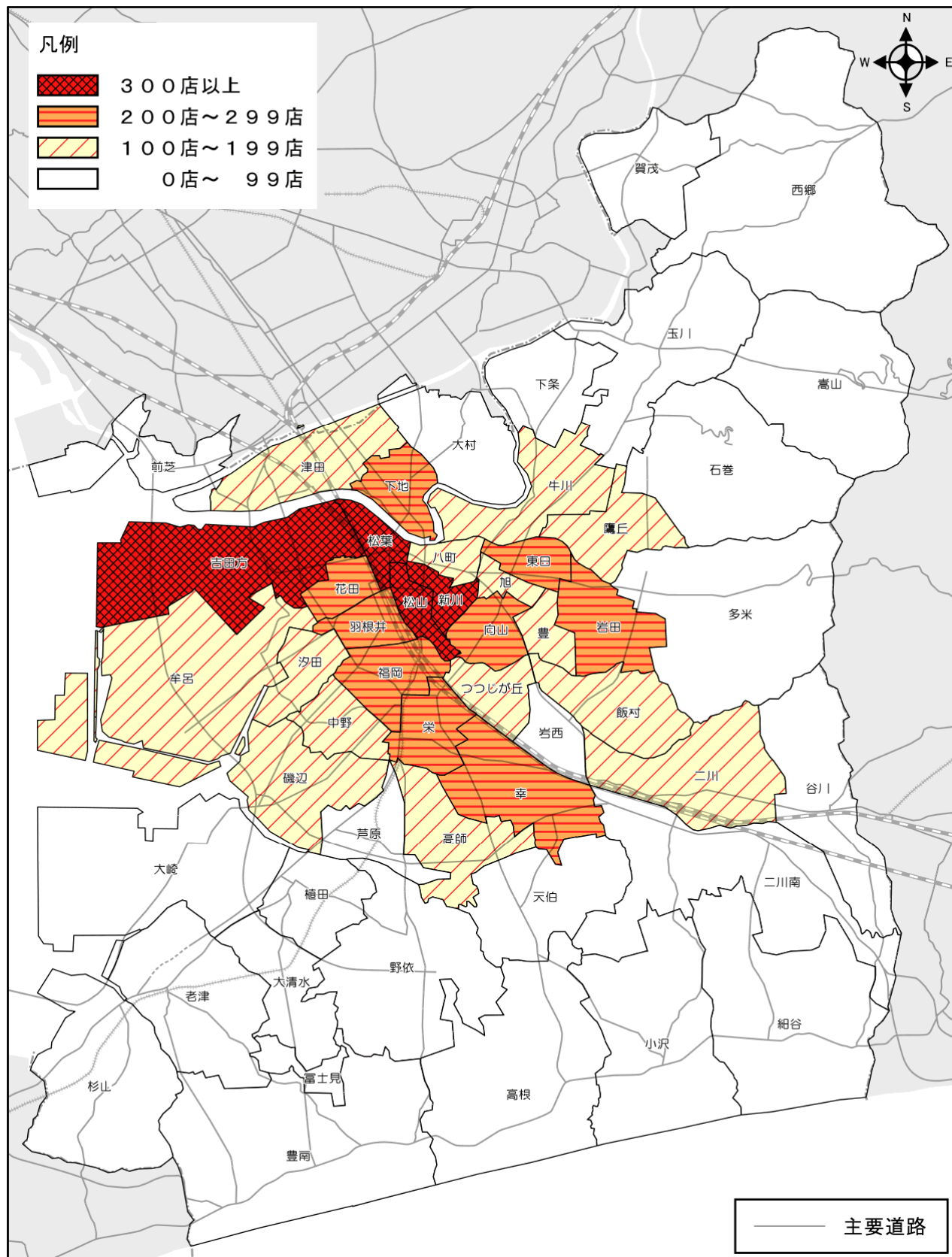


図2-1-18 小学校区別の商店数（卸売・小売業）の立地状況

資料：H13 豊橋市事業所・企業統計調査

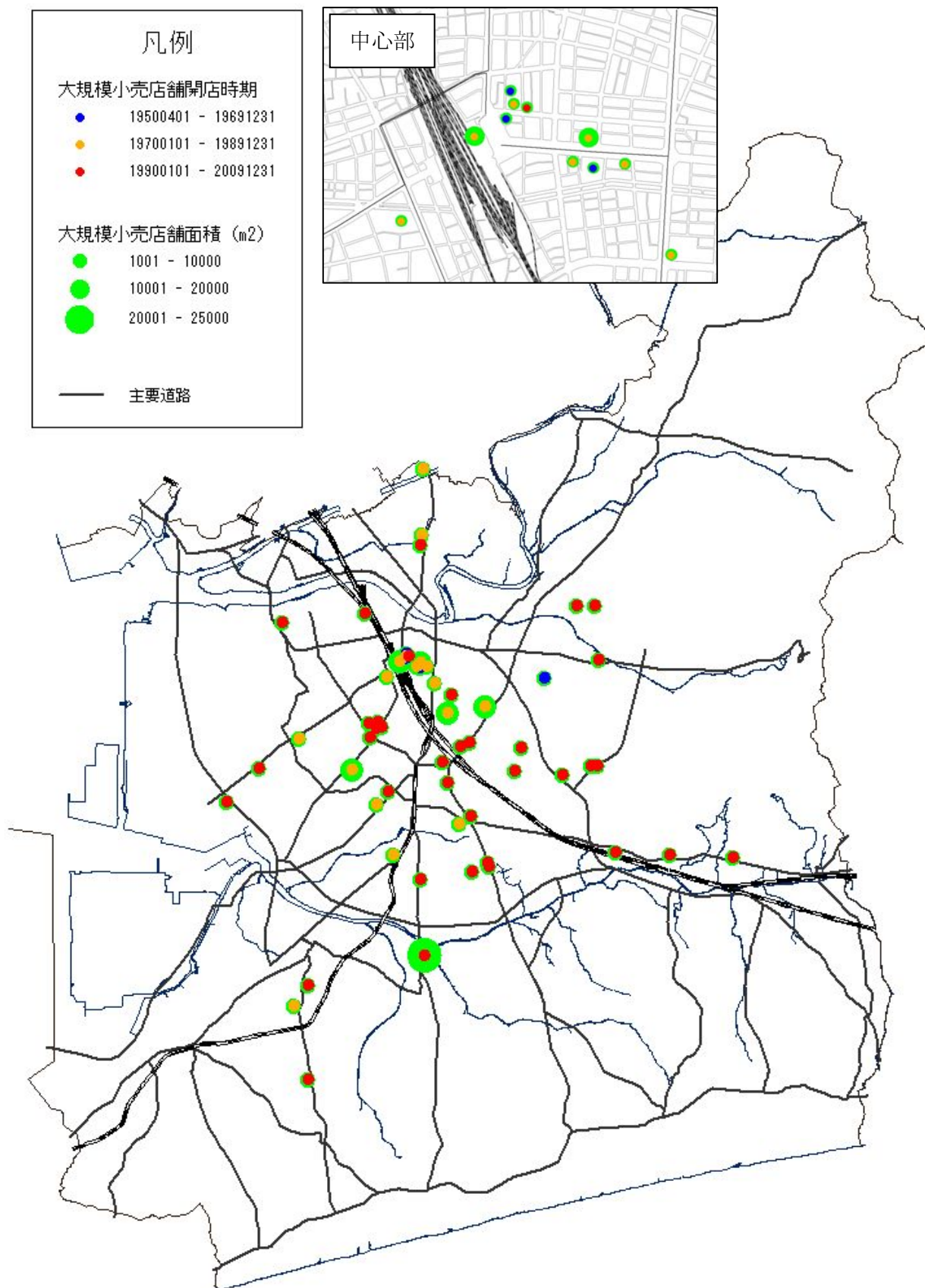
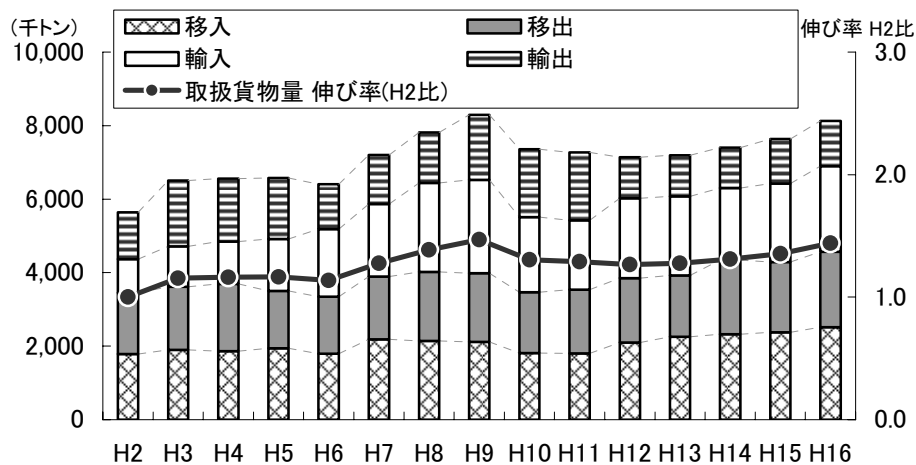


図2-1-19 大規模小売店舗の立地状況

資料：豊橋の商工業 2005

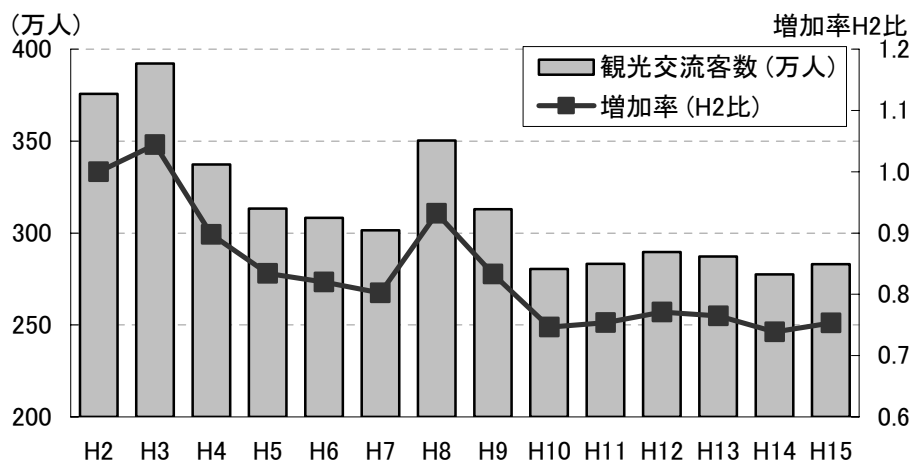
② 港湾物流



資料:豊橋市統計書

図2-1-20 三河港（豊橋エリア）における海上出入貨物量の推移

③ 観光



資料:愛知県観光レクリエーション利用者統計

図2-1-21 豊橋市における観光交流客数の推移

6) 土地利用

- 鉄道駅（豊橋駅、JR 二川駅）を中心に、市街地が形成されています。
- 市街地の中心部は商業系、近郊部は主に住居系、そして郊外部のうち三河港（豊橋エリア）及び鉄道沿いは工業系の土地利用となっています。
- 郊外は主に農地や自然地となっています。

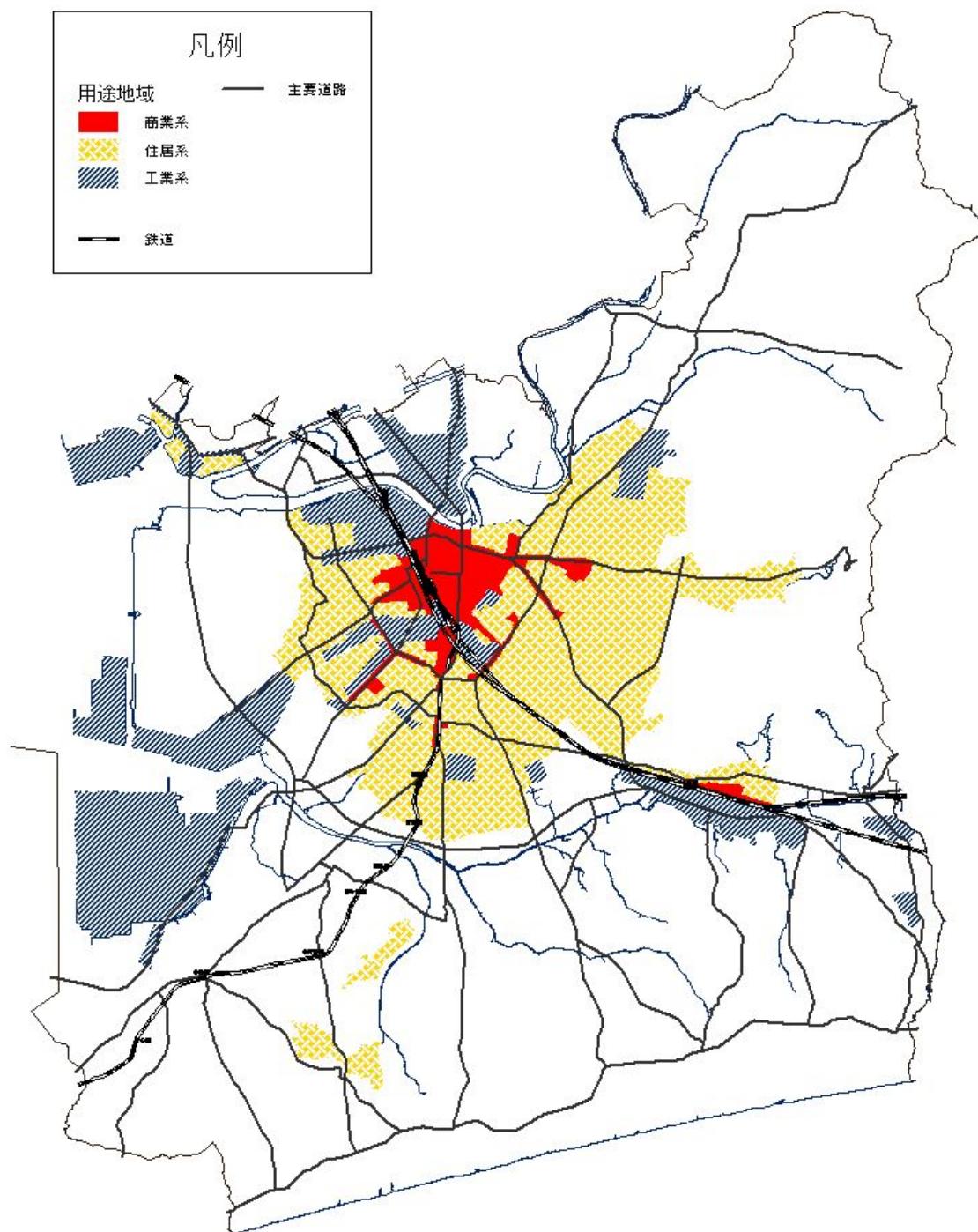
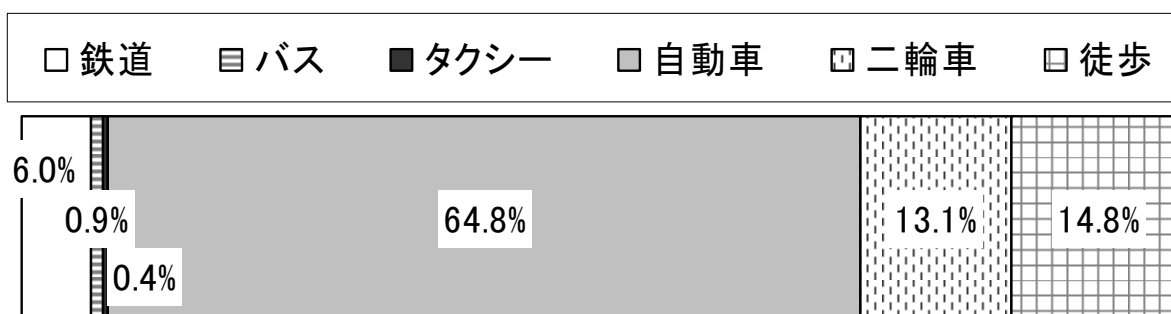


図2-1-22 土地利用図

2-2. 豊橋市の交通概況

1) 豊橋市における代表交通手段

- 代表交通手段の分担率（主な交通手段の構成割合）をみると、自動車が約 65%、公共交通機関（鉄道、バス、タクシー）が約 7%、徒歩・二輪車が約 28%となっています。
- 代表交通手段の約 2/3 が自動車であることから、豊橋市の交通は自動車に依存していることがうかがえます。



資料：H13 中京都市圏パーソントリップ調査

図2-2-1 豊橋市における代表交通手段の分担率

2) 自動車交通の現況

(1) 現況道路網

- 主要な幹線道路としては、市中心部から放射状に走っている国道 1 号や国道 23 号、国道 259 号があります。また、市北部を横断する東名高速道路や国道 362 号、市西部から南部に走る国道 23 号バイパス、市南部を横断する国道 42 号があります。
- 道路網としては、主要な幹線道路を骨格として放射環状型に計画されているものの、国道 23 号豊橋・豊橋東バイパス及び(主)東三河環状線の区間が未整備となっています。
- 国道 1 号などの主要な幹線道路の交差点が渋滞箇所となっています。

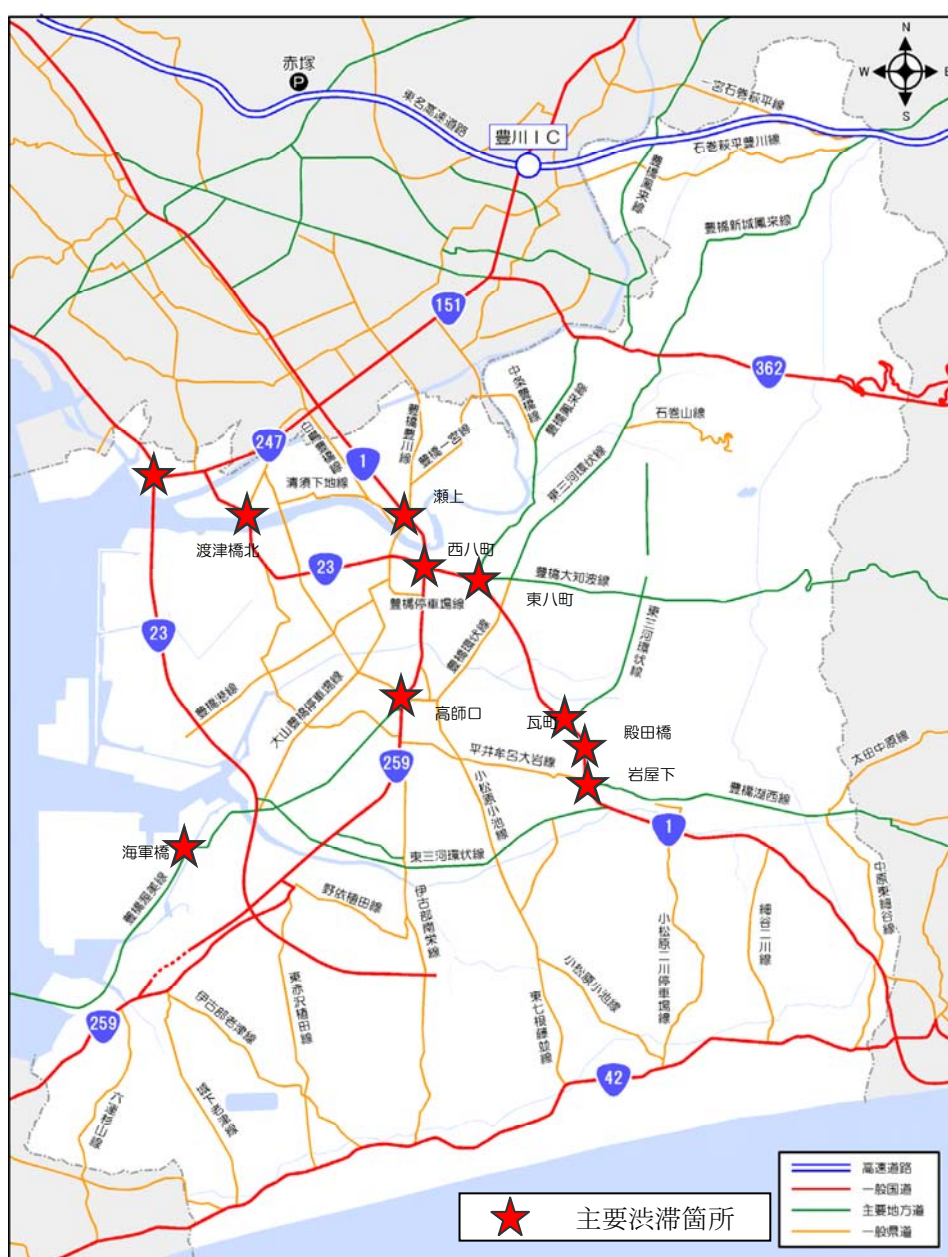


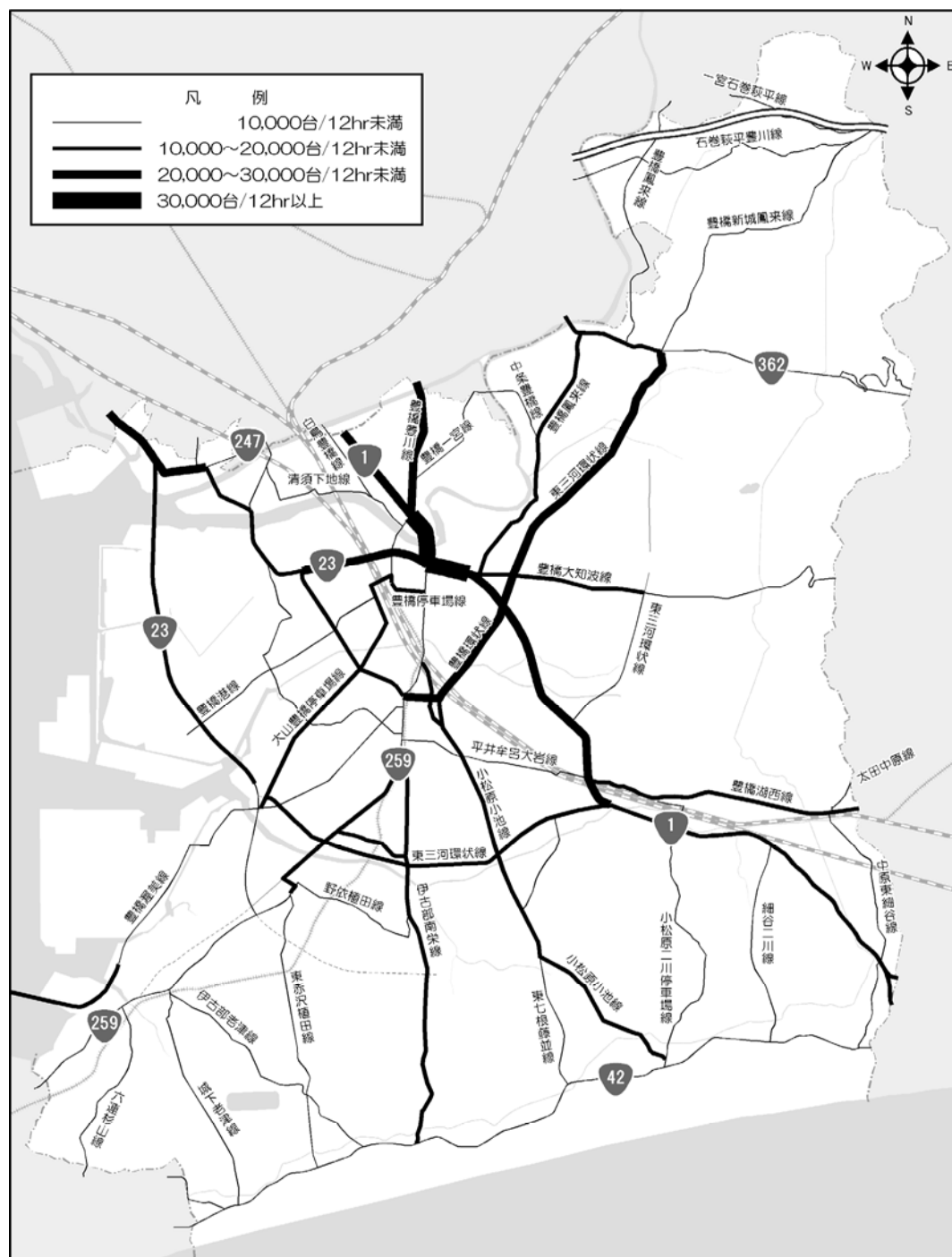
図2-2-2 現況道路網図

表2-2-1 道路の主要渋滞箇所

主要渋滞ポイント名	道路名	交差道路名
★ 岩屋下交差点	国道1号	(主)豊橋湖西線、(県)平井牟呂大岩線
★ 殿田橋交差点	国道1号	市道
★ 瓦町交差点	国道1号	(県)豊橋環状線
★ 東八町交差点	国道1号	(主)豊橋大知波線、市道
★ 西八町交差点	国道1号	国道23号、国道259号
★ 瀬上交差点	国道1号	(県)豊橋豊川線
★ 渡津橋北交差点	国道23号	(県)平井牟呂大岩線
★ 高師口交差点	国道259号	(県)豊橋環状線
★ 海軍橋交差点	(主)豊橋渥美線	臨海道路

(2) 現況交通量

- 豊橋市内で最も交通量の多い道路（東名高速除く）は国道1号であり、交通量は2万台以上/12hとなっています。特に、豊川の架橋部（吉田大橋）付近から東八町の区間では、約3万台/12hの交通集中が生じています。次いで(県)豊橋環状線、(主)東三河環状線の市東部から北部にかけての区間の交通量が連続的に多くなっています。

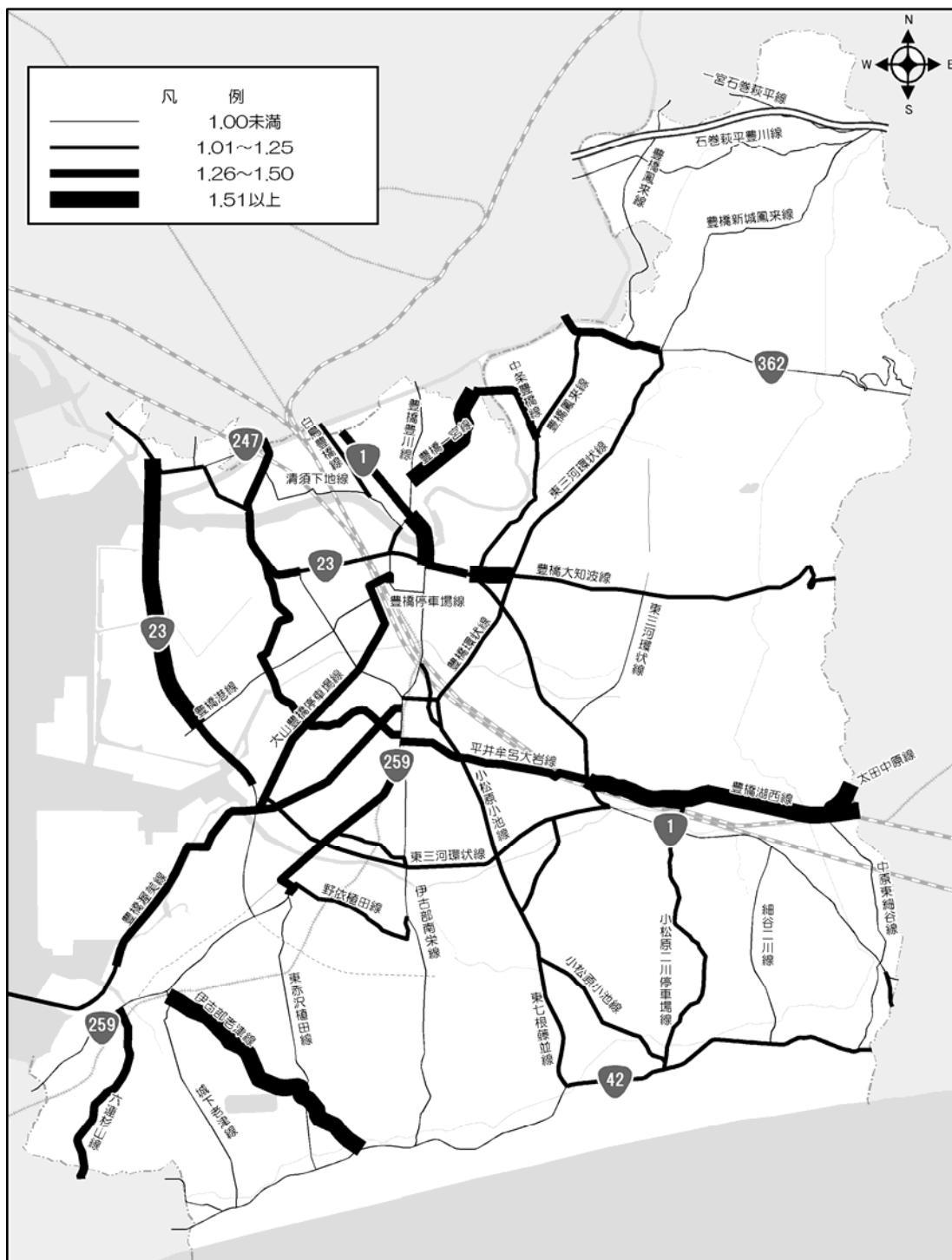


資料：H11 道路交通センサス

図2-2-3 交通量図

(3) 現況混雑度

●現況の混雑度が 1.51 以上の路線は、国道 1 号の豊川架橋部、国道 23 号の豊川架橋部、(主)豊橋湖西線などがあります。

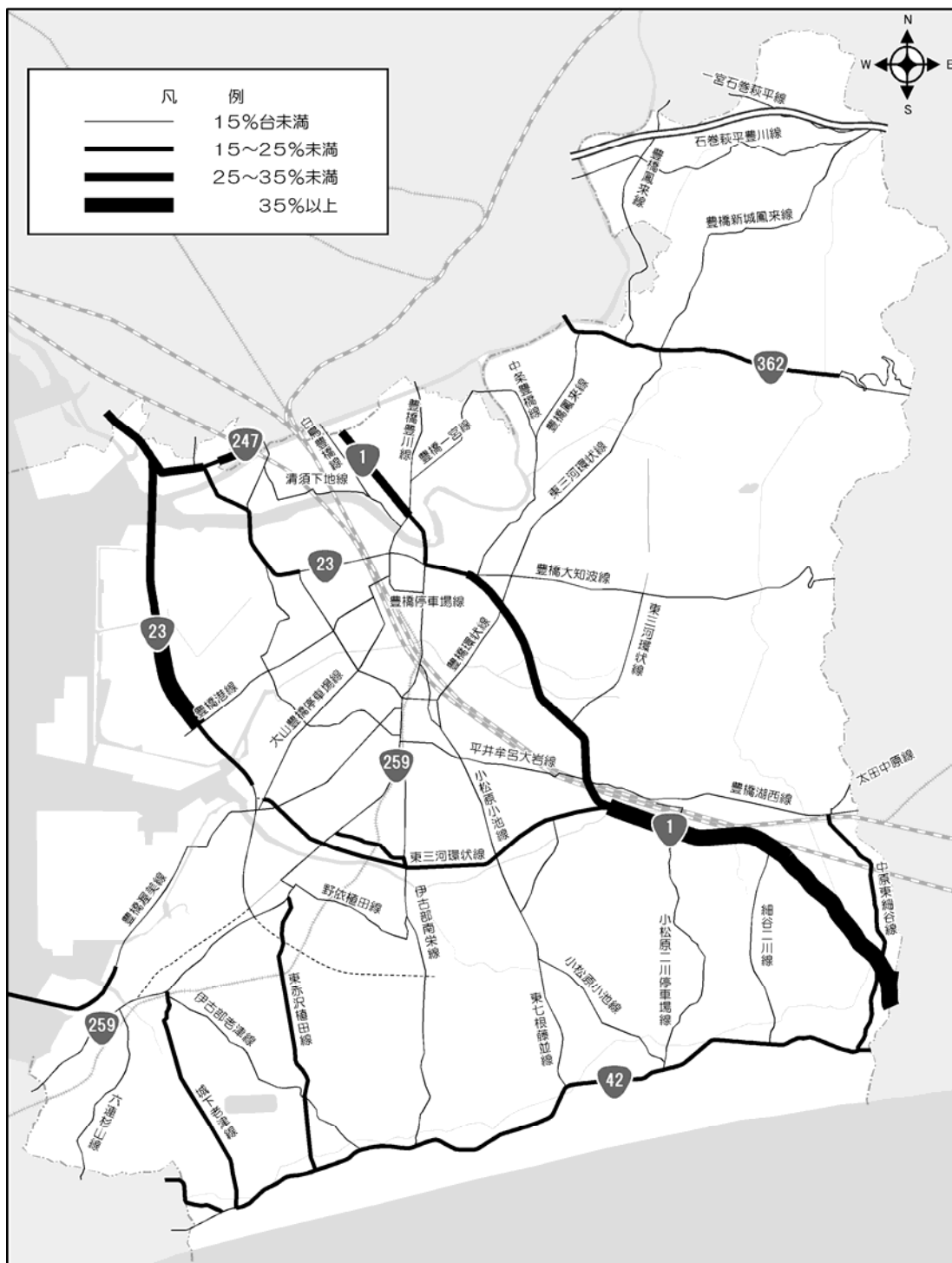


資料：H11 道路交通センサス

図2-2-4 混雑度図

(4) 現況大型車混入率

● 主要な幹線道路である国道1号と国道23号に大型車が集中しており、特に国道1号では大型車混入率が35%以上と高くなっています。



資料：H11 道路交通センサス

図2-2-5 大型車混入率図

(5) 自動車保有台数

- 自動車台数はほぼ横ばいであり、平成 12 年から 16 年の間で約 0.4% 増加しています。
- 1 人あたりの自動車保有台数は、公共交通機関の少ない郊外部ほど多い傾向にあり、これらの地域での自動車交通への依存度の高さがうかがえます。

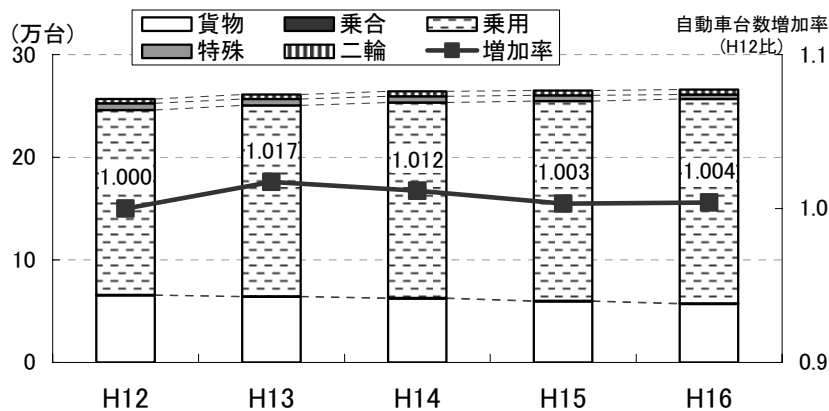


図2-2-6 自動車台数の推移 資料:豊橋市統計書

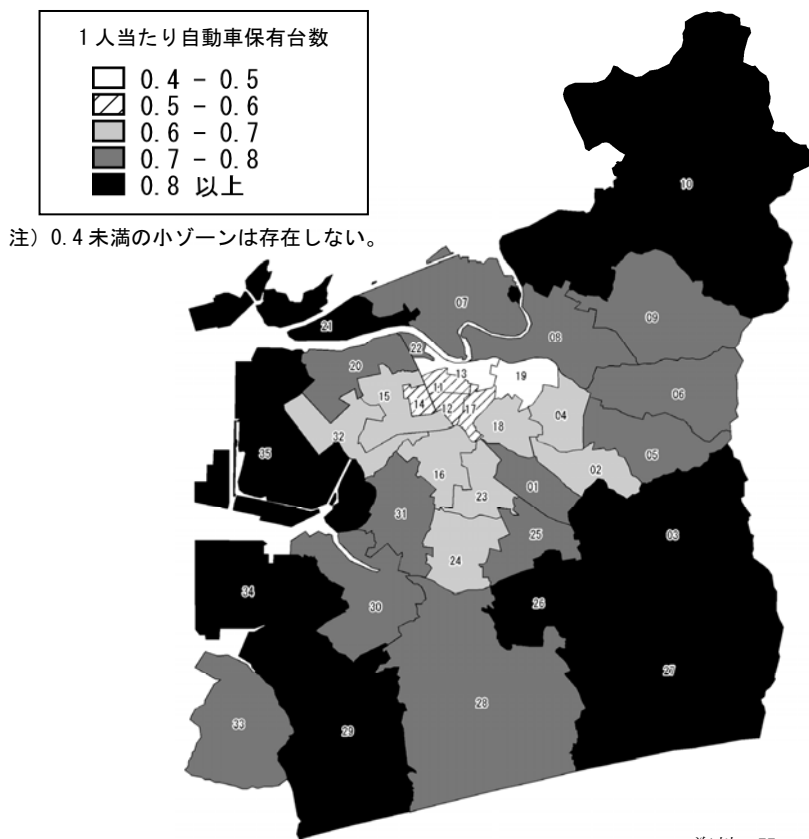


図2-2-7 地域別の自動車保有台数

(6) 交通事故

- 交通事故の発生件数は、増加傾向にあります。
- 人身事故は、幹線道路で多く発生しています。

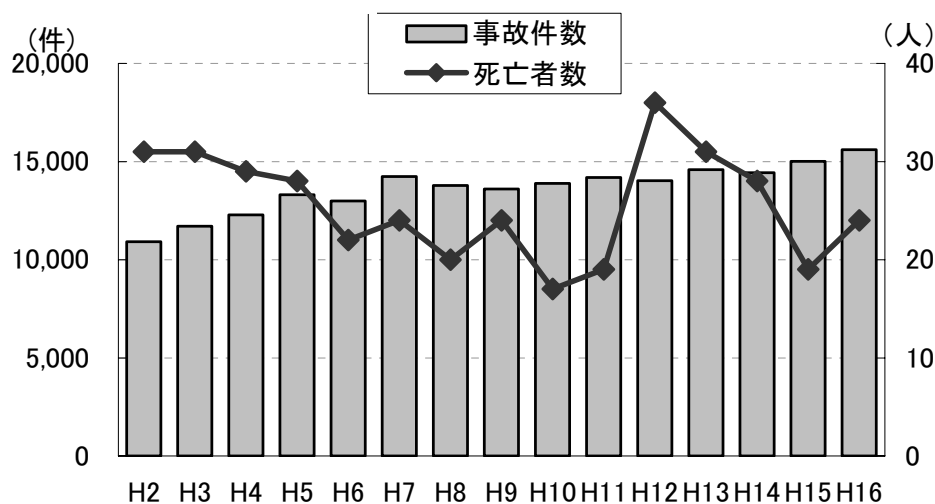


図2-2-8 交通事故件数の推移

資料:豊橋市統計書

表2-2-2 人身交通事故の路線別件数

単位:件

区分		死亡	重傷	軽傷	計
合計		24	69	3,995	4,088
国	1号	5	11	292	308
	23号	1	3	167	171
	259号	2	0	202	204
	その他	1	0	50	51
主要地方道	豊橋湖西線	0	2	70	72
	豊橋大知波線	0	4	72	76
	東三河環状線	1	0	133	134
	豊橋鳳来線	0	0	25	25
	豊橋渥美線	0	1	63	64
	その他	0	0	4	4
県道	大山豊橋停車場線	1	0	84	85
	豊橋港線	1	0	60	61
	豊橋豊川線	0	1	68	69
	小松原小池線	0	0	83	83
	豊橋環状線	0	2	175	177
	その他	2	2	154	158
市道・その他		10	43	2,293	2,346

資料:H16豊橋警察署資料

3) 公共交通の現況

(1) 鉄道

- 豊橋駅は、複数の鉄道が乗り入れる交通結節点となっています。
- 平成 15 年の鉄道利用者数は平成 2 年と同程度となっています。
- 駅別の乗車人員を見ると、豊橋駅や新豊橋駅に集中していますが、J R 二川駅、豊鉄渥美線愛知大学前駅などでも比較的乗客数が多くなっています。

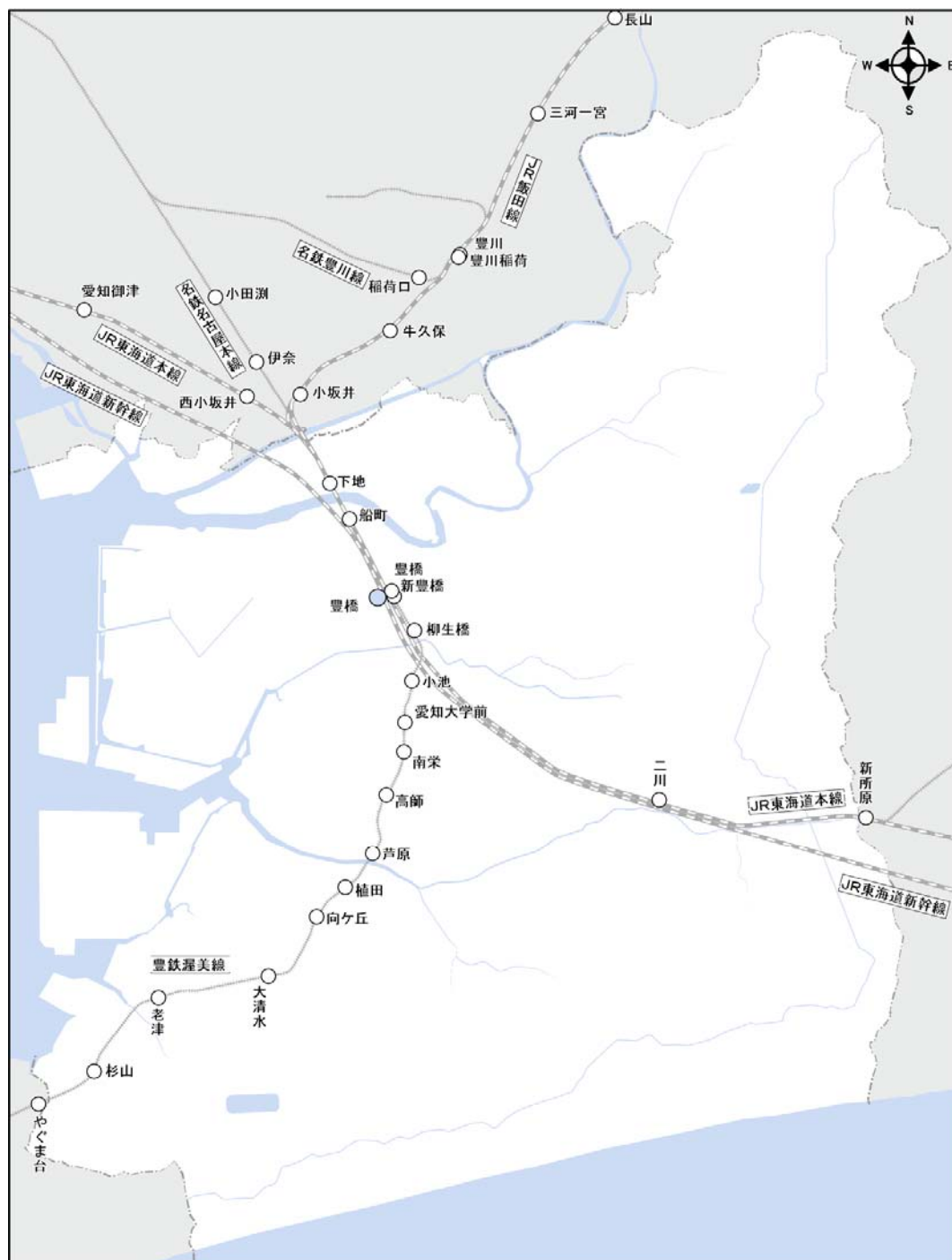
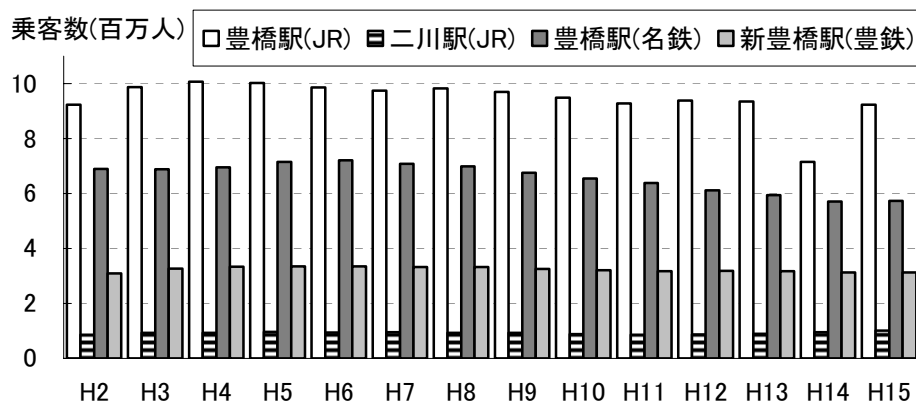


図2-2-9 鉄道網図

表 2-2-3 鉄道駅別乗車人員の推移

		(千人/年)													
路線名	駅名	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
JR東海道本線	豊橋	9,234	9,872	10,073	10,019	9,865	9,748	9,822	9,700	9,486	9,280	9,383	9,348	7,148	9,230
	二川	859	932	932	961	944	957	933	925	887	863	872	900	955	1,010
名鉄名古屋本線	豊橋	6,897	6,880	6,952	7,154	7,211	7,080	6,989	6,759	6,550	6,388	6,122	5,941	5,715	5,737
豊鉄渥美線	新豊橋	3,096	3,272	3,339	3,348	3,354	3,320	3,331	3,260	3,205	3,169	3,184	3,175	3,124	3,125
	柳生橋	195	175	185	178	185	181	176	185	191	175	158	161	167	168
	小池	171	179	175	178	168	149	147	159	147	138	139	129	133	133
	大学前	661	721	733	764	739	730	717	862	933	932	992	1,007	1,008	1,027
	南栄	671	1,018	1,004	1,039	1,037	1,024	988	833	783	727	719	711	684	654
	高師	422	450	498	478	482	480	492	478	458	445	429	419	415	423
	芦原	86	89	91	93	93	92	90	103	102	98	98	98	101	101
	植田	82	85	91	87	87	85	82	80	81	76	79	88	89	97
	向ヶ丘	175	175	145	151	146	148	164	152	147	146	143	139	143	120
	大清水	658	688	698	687	685	674	675	640	614	607	601	584	560	564
	老津	164	145	146	148	148	146	143	138	139	137	135	139	135	133
	杉山	97	98	98	99	91	85	80	78	81	77	72	75	70	71

資料：愛知県統計年鑑



資料：豊橋市統計書

図2-2-10 豊橋駅等の乗客数の推移

(2) 路面電車

- 豊鉄東田本線は、路線延長約 5.4km の全国でも数少ない路面電車です。
- 利用者数は以前に比べて減少しましたが、平成 16 年は利用者が増加しました。
- 利用者が不満に思う項目のワースト 3 は、次のとおりです。
 - ① 電停の安全性 ② 乗降のしやすさ ③ 各電停の駐輪施設

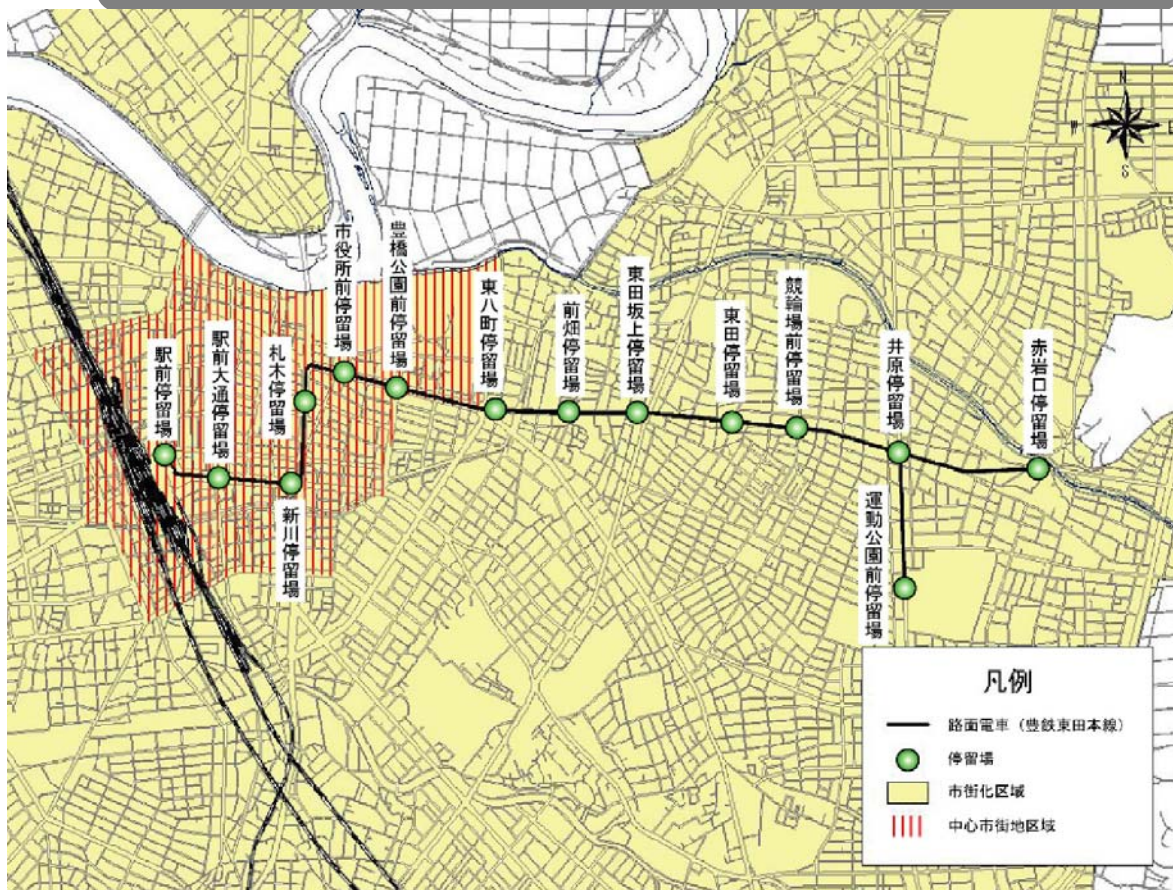
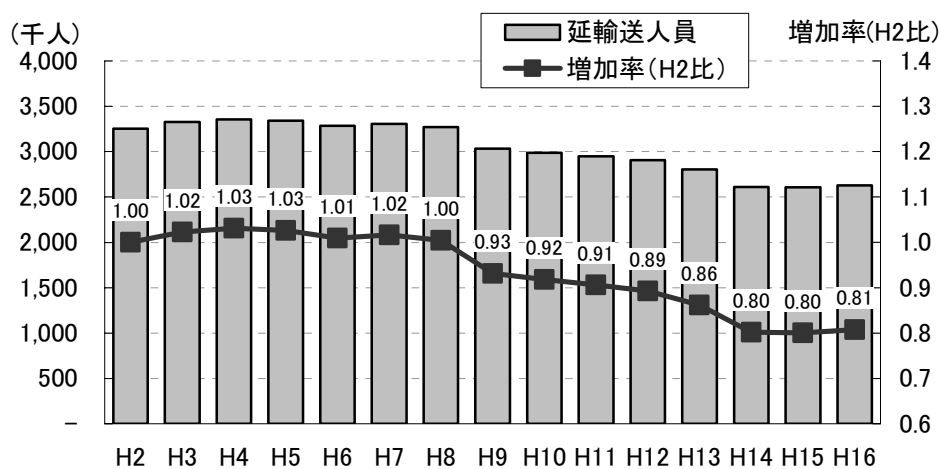
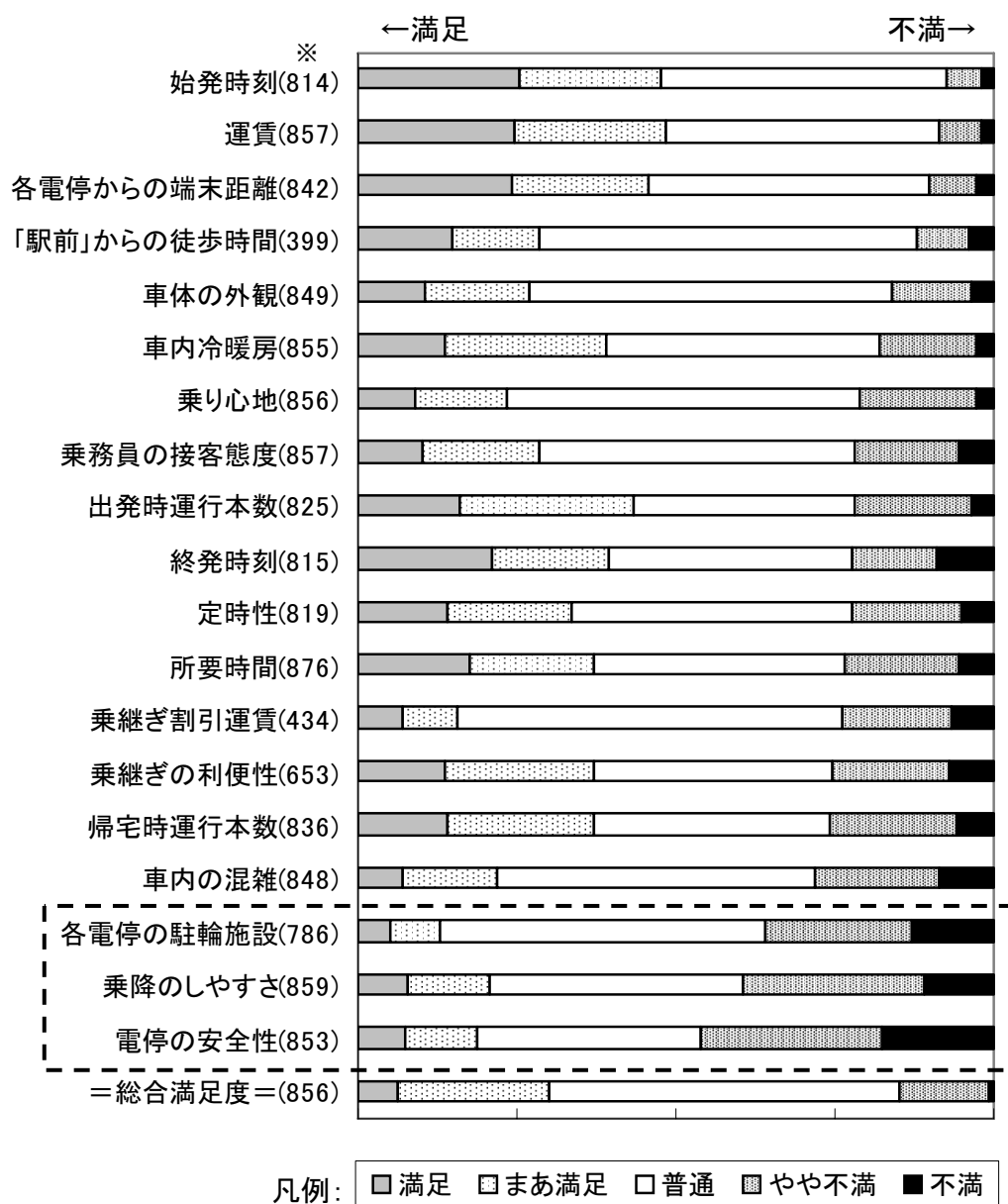


図2-2-11 路面電車の路線図



資料: 豊橋市統計書

図2-2-12 路面電車の利用者数の推移



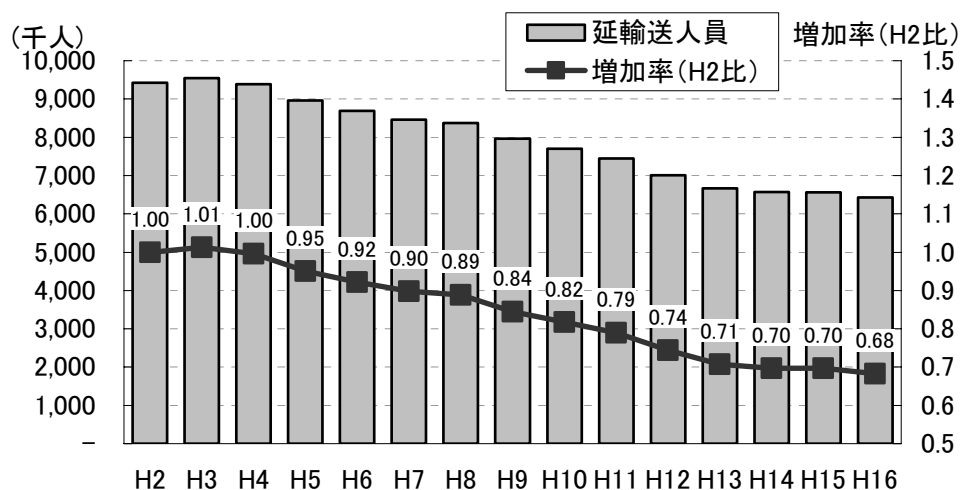
※()は回答数を示す

資料：H13年 豊橋技術科学大学調査

図2-2-13 路面電車に対する利用者の満足度

(3) 路線バス

- バス路線網は、豊橋駅を中心として放射状に形成されており、豊橋駅以外の駅では、鉄軌道と路線バスとの結節性がほとんどありません。
- 乗車人数は豊橋駅周辺の区間では多く、郊外部の区間では少なくなっています。
- 利用者数は、年々減少傾向にあります。このため、郊外部ではバス路線の廃止が進んでおり、公共交通空白地域が広がる傾向にあります。
- 市民が路線バスについて不満に思う項目のワースト3は、次のとおりです。
 - ①帰宅時のバスの運行本数
 - ②出発時のバスの運行本数
 - ③バス等の運賃



資料: 豊橋市統計書

図2-2-14 路線バスの利用者数の推移

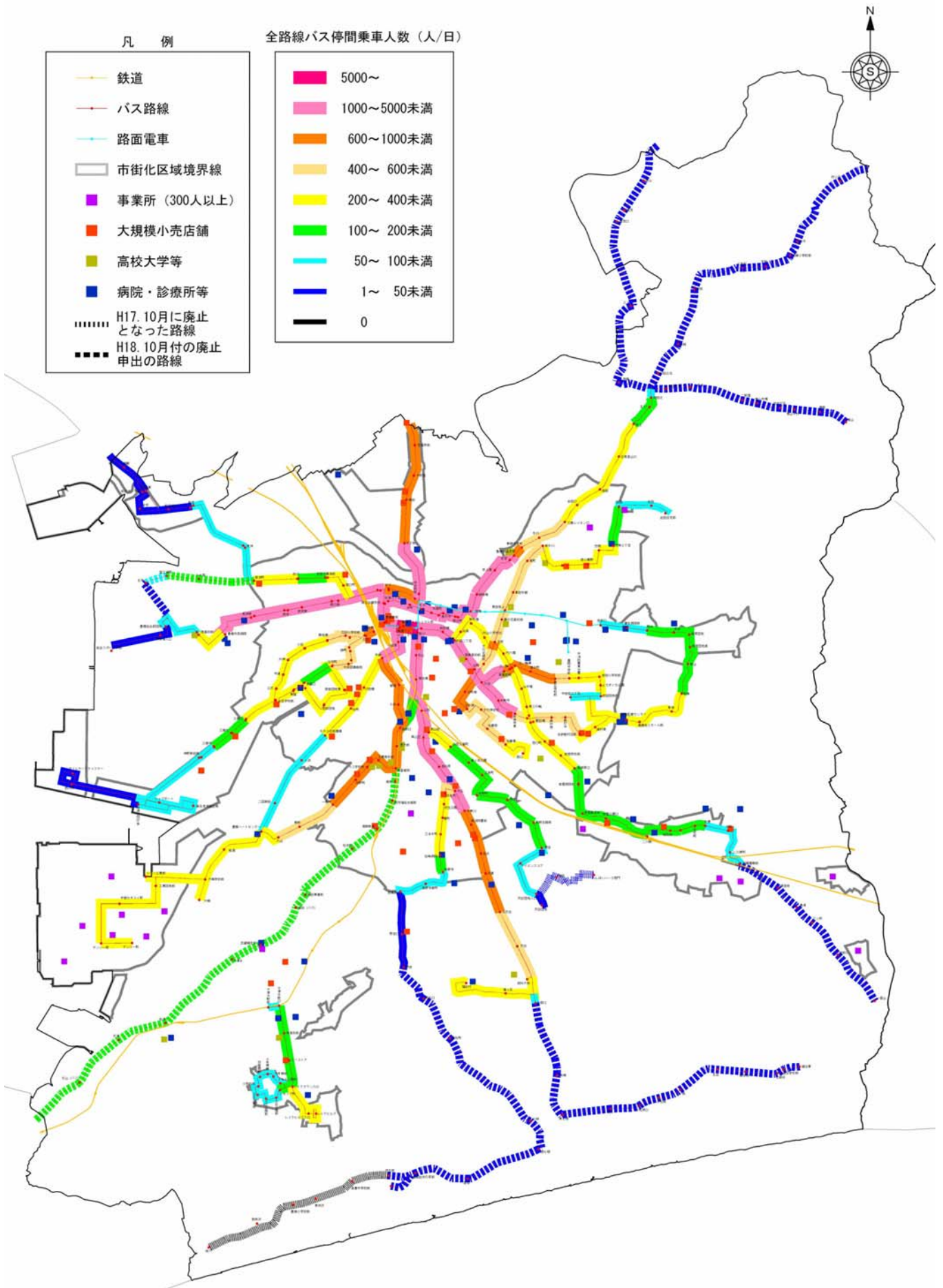
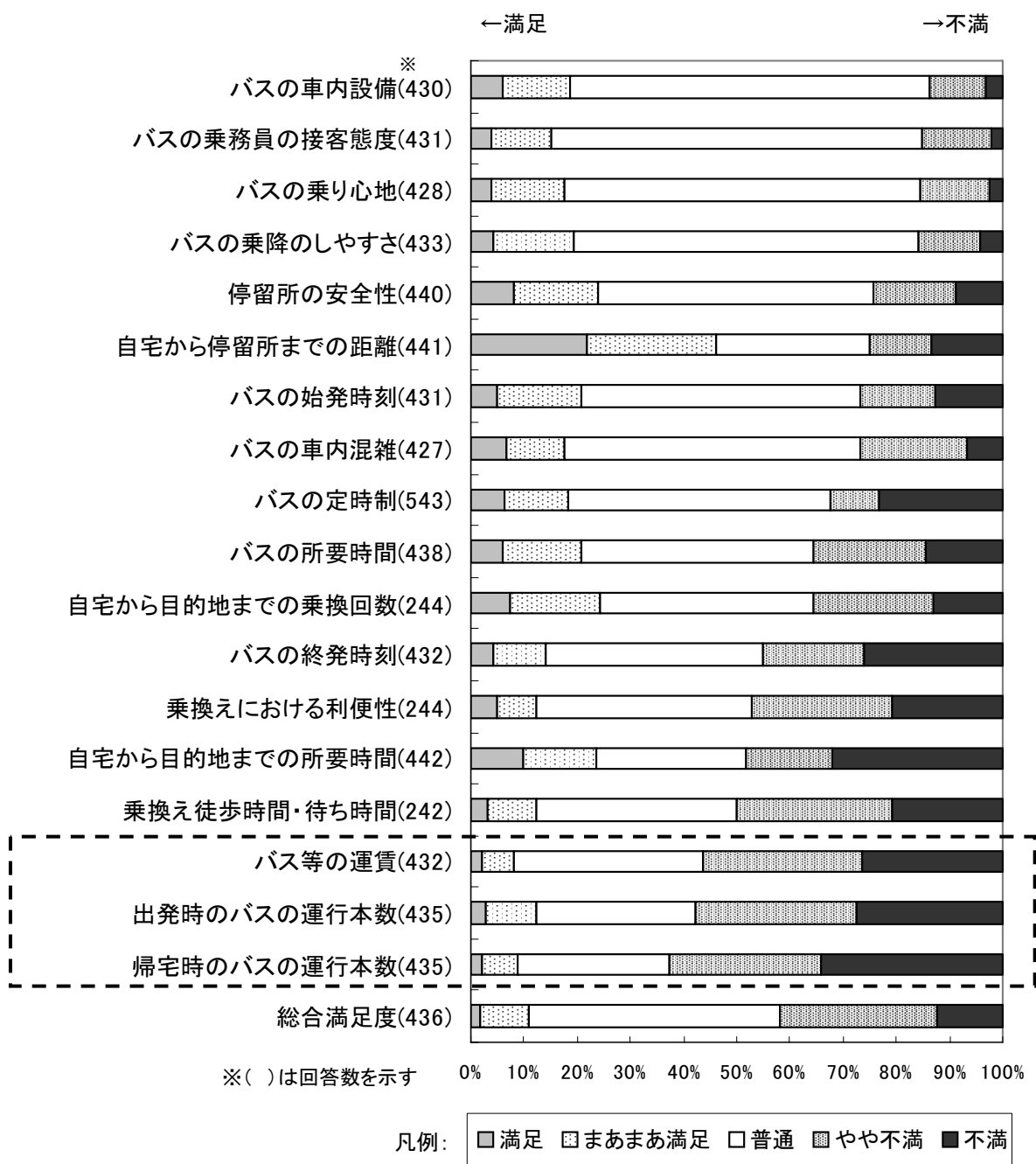


図2-2-15 バス路線網図

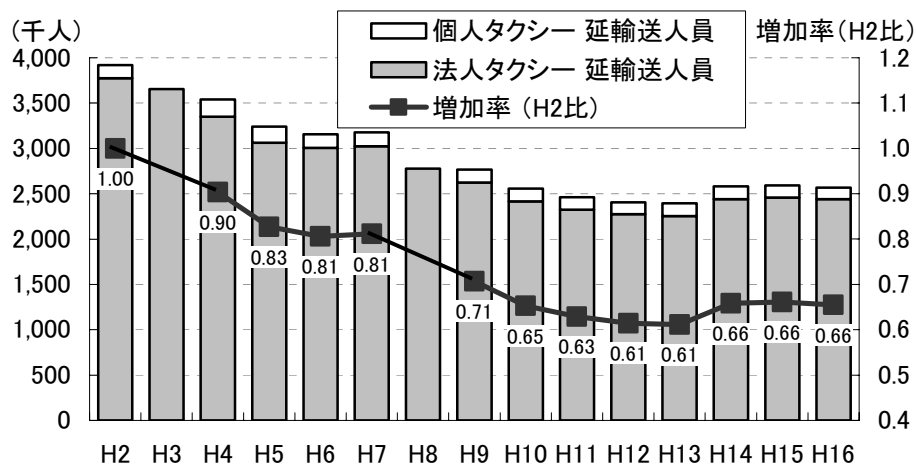


資料：H13年 豊橋技術科学大学調査

図2-2-16 路線バスに対する市民の満足度

(4) タクシー

●豊橋市内のタクシーの利用者数は、平成13年までは減少傾向にありましたが、平成14年に増加し、その後はおおむね横ばいとなっています。



資料:愛知運輸支局

※H3とH8の個人タクシー延輸送人員は不明。

図2-2-17 タクシー利用者数の推移

4) 通勤・通学流動の動向

(1) 通勤・通学の流動数

- 豊橋市の通勤通学流動（自宅外）の総量では、従業・従学者数は 181,028 人、就業・就学者数は 182,489 人となっており、豊橋からの流出が若干多くなっている状況です。豊橋市内々の就業・就学者数（従業・従学者数）は 141,672 人で、豊橋市における就業就学者総数の約 78%を占めています。
- 従業・従学地及び就業・就学地（豊橋市を除く）で最も多いのは豊川市で、次いで田原町（現田原市）、湖西市、名古屋市（但し、従業・従学は8番目）、蒲郡市、岡崎市の順となっています。

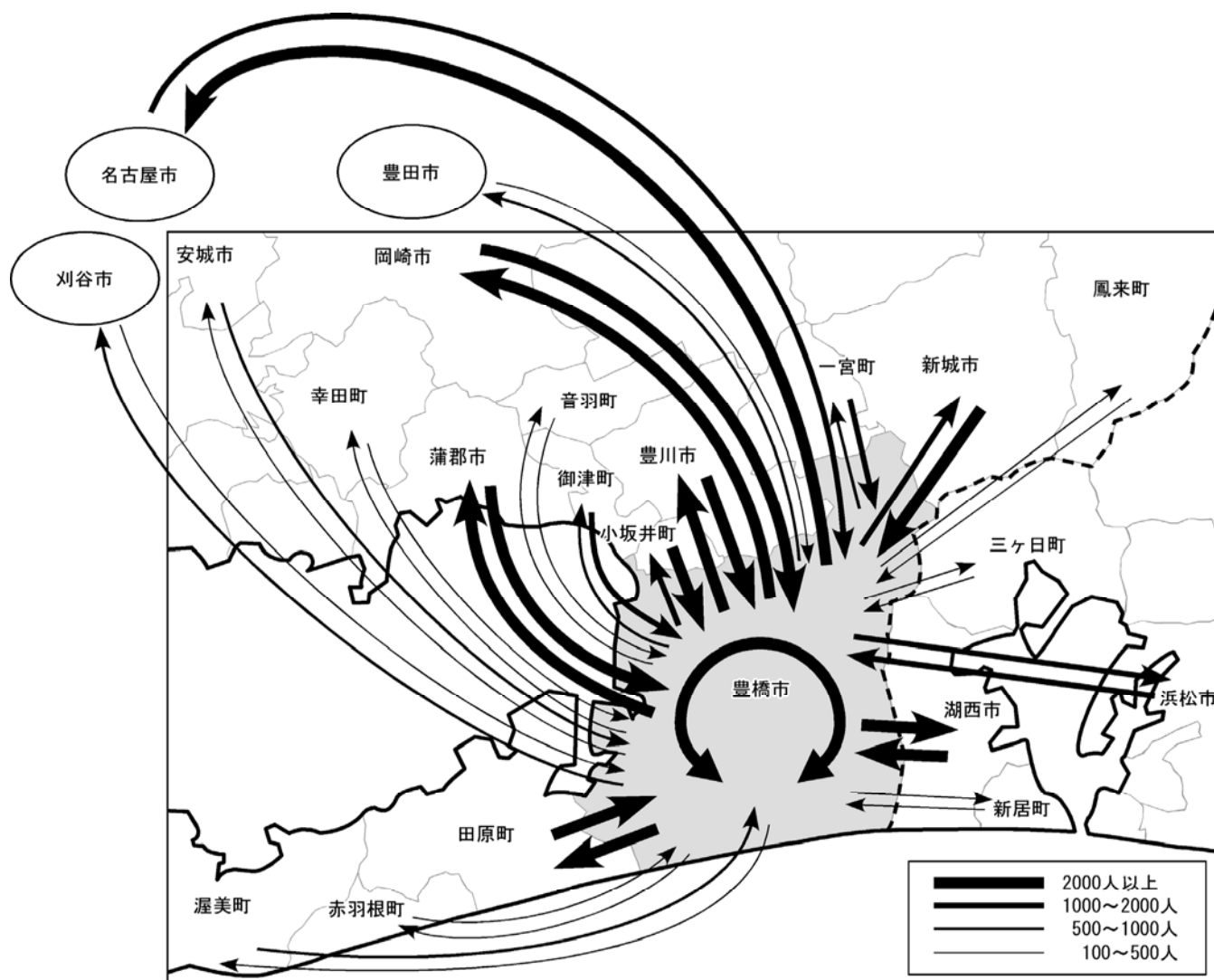
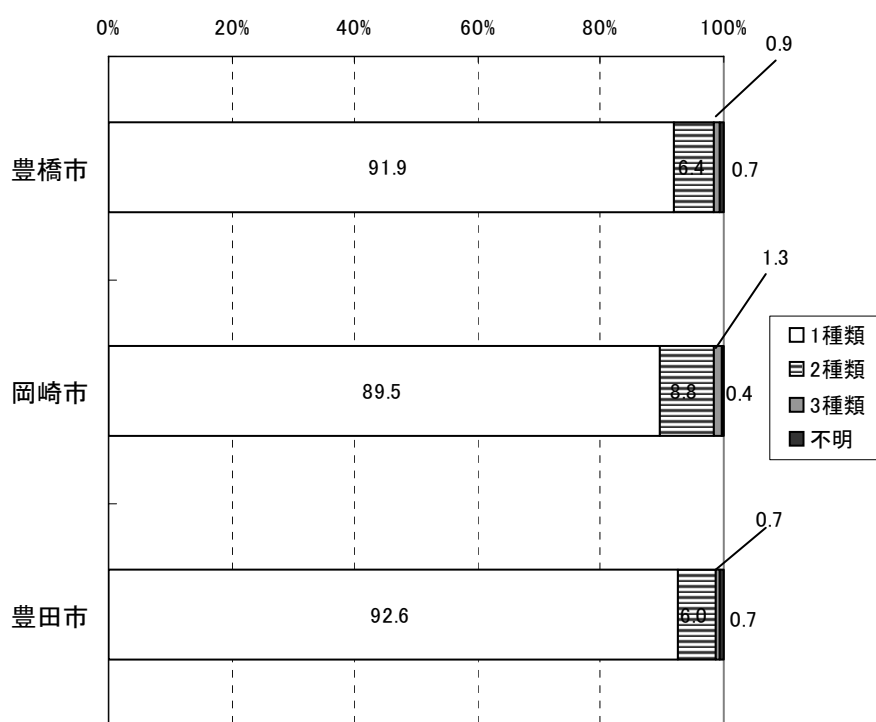


図2-2-18 通勤・通学流動図

資料：H12 国勢調査

(2) 通勤・通学の交通手段

- 常住地における通勤・通学者が何種類の交通手段を利用しているかの分析を行い、豊橋市と同様に県内の中核市である岡崎市、豊田市と比較しました。
- 豊橋市と豊田市は交通手段の利用が1種類のみがともに92%程度であり、2種類は6%程度で非常に類似しています。岡崎市は他の2市と若干異なり、2種類以上の交通手段利用が2市に比べ僅かに高くなっています。



資料：H12 国勢調査

図2-2-19 通勤通学における交通手段の利用種類

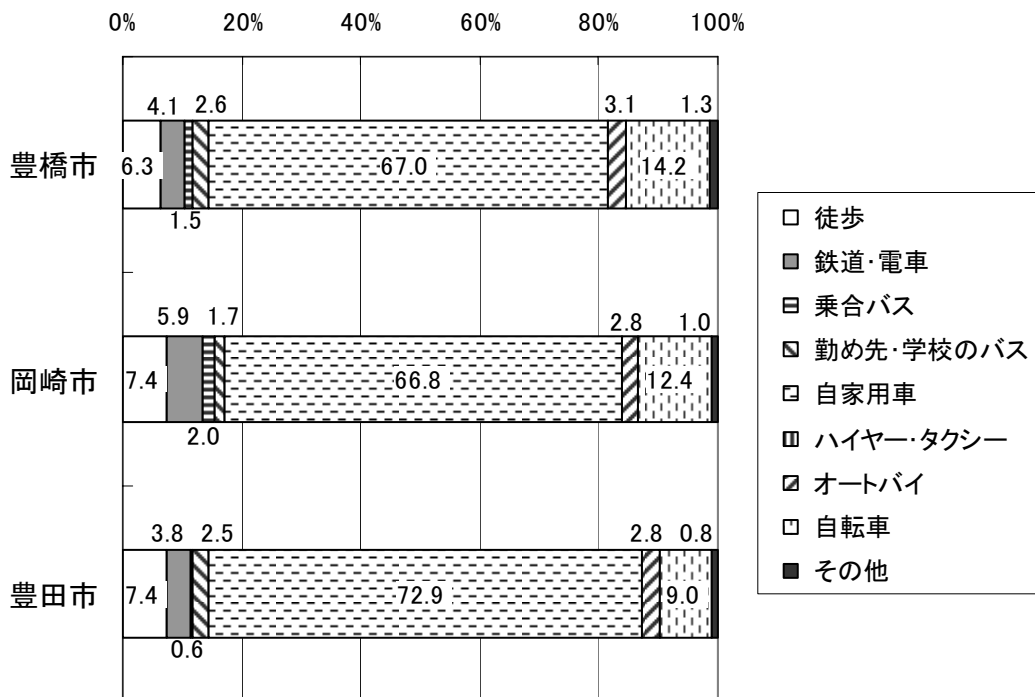
表2-2-4 通勤通学における交通手段の利用種類

区分	総人口	1種類	2種類	3種類	不明	計
豊橋市	364,856	167,732	11,681	1,709	1,367	182,489
岡崎市	336,583	159,498	15,720	2,405	664	178,287
豊田市	351,101	182,709	11,850	1,459	1,302	197,320

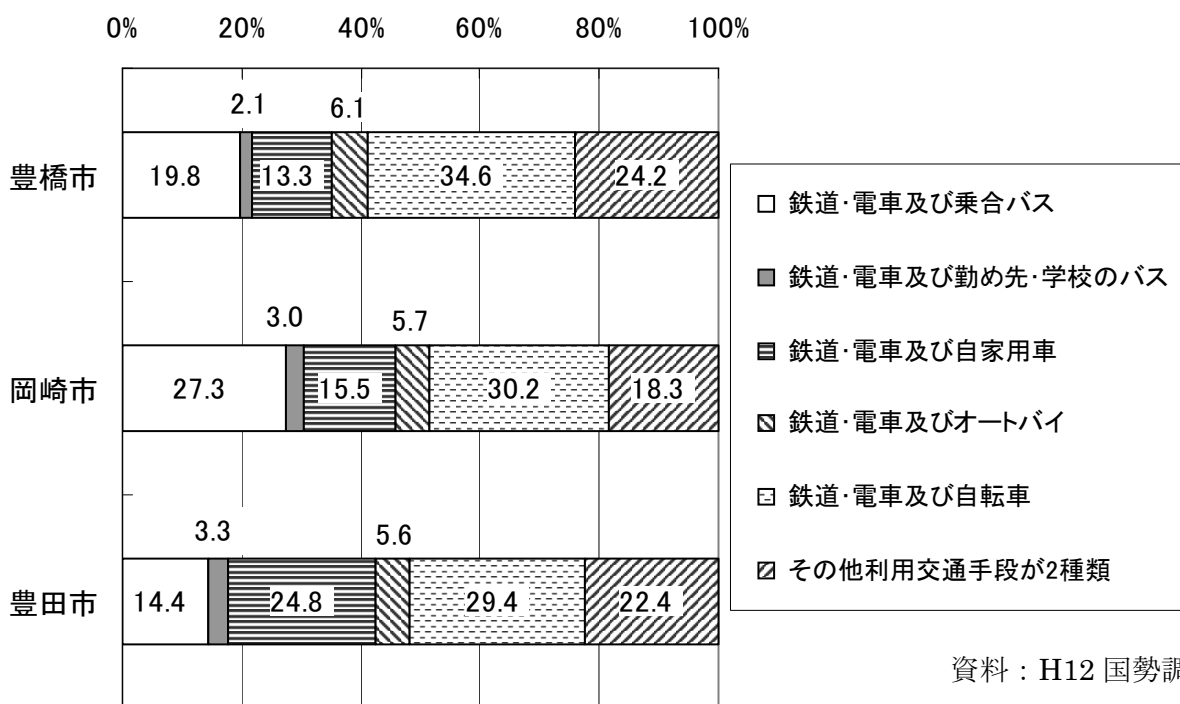
資料：H12国勢調査

- 1種類の利用交通手段をみると、3市とも7割程度を自動車が占めています。特に豊橋市は他の2市に比べ自転車利用が14.2%と高くなっています。
- 2種類の利用交通手段をみると、豊橋市は鉄道+自転車の利用が34.6%と3市の中で最も高く、反対に鉄道+自家用車の利用は13.3%と3市の中で最も低くなっています。

交通手段（1種類）



交通手段（2種類）

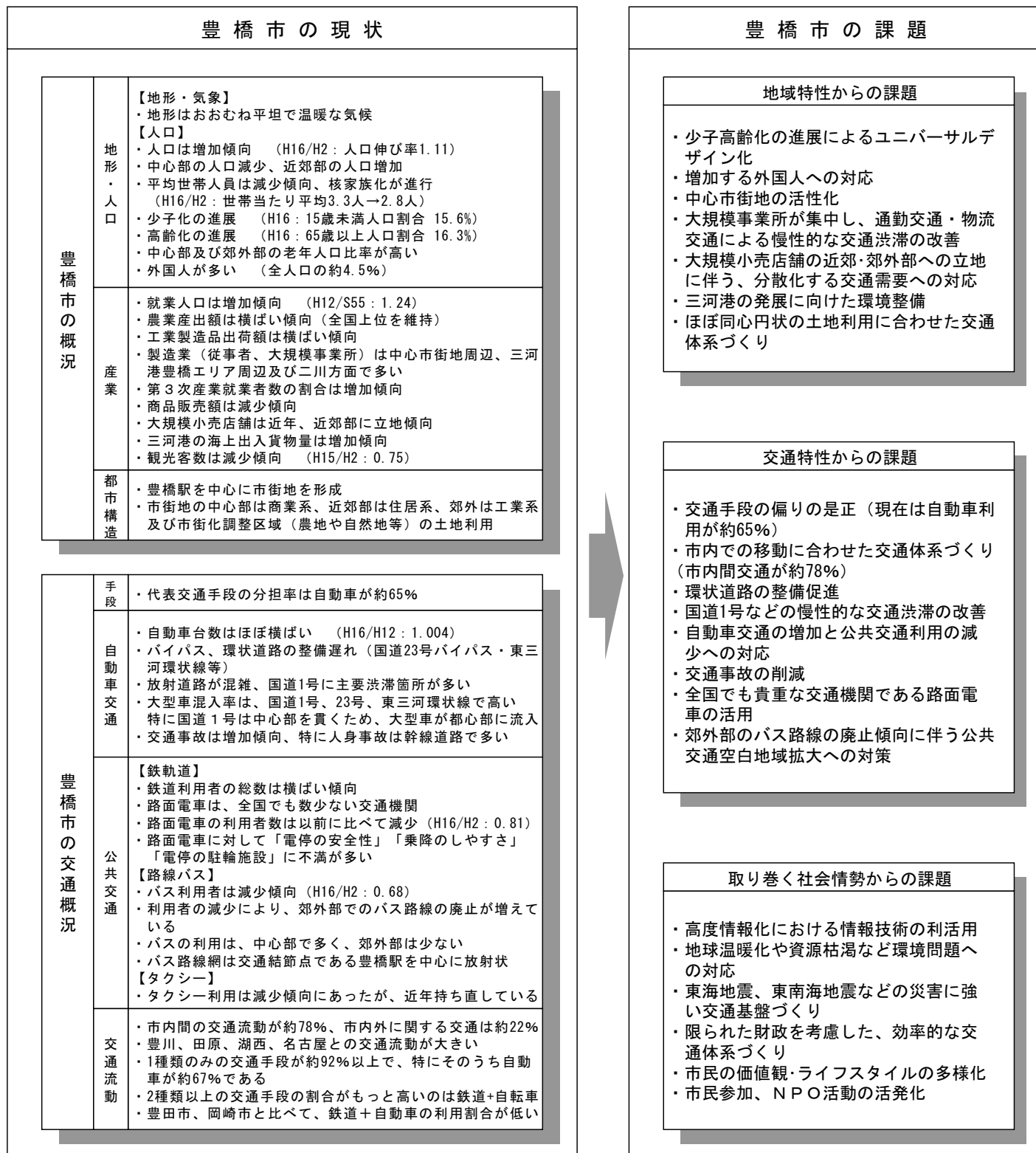


資料：H12 国勢調査

図2-2-20 豊橋市・岡崎市・豊田市の利用交通手段

2-3. 豊橋市の交通の課題

豊橋市の現状からわかる交通に関する課題を整理します。

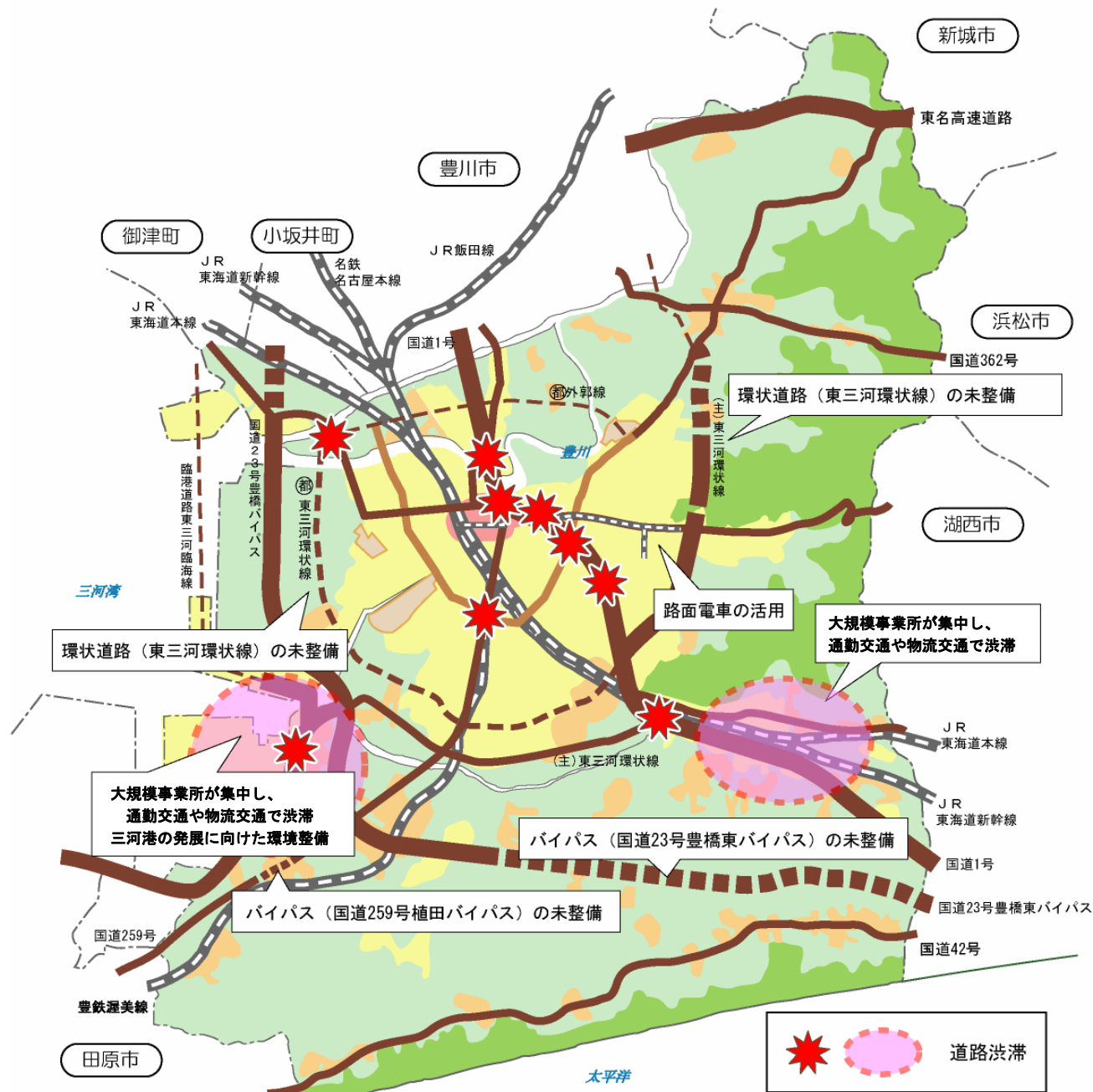


中心部の課題

- ・ 中心市街地の活性化
- ・ 人口の高齢化の進展によるユニバーサルデザイン化

近郊部の課題

- ・ 交通事故の削減
- ・ 慢性的な交通渋滞の改善
- ・ 分散化する交通需要への対応



郊外部の課題

- ・ 交通事故の削減
- ・ 公共交通空白地拡大への対策

市全域の課題

- ・ 市内での移動に合わせた交通体系づくり
- ・ 交通手段の偏りの是正
- ・ 環境問題への対応
- ・ 災害に強い交通基盤づくり

凡例

中心市街地	広域幹線道路
市街化区域	環状幹線道路
市街化調整区域	放射幹線道路
集落地域	バイパスや環状道路の整備
自然地域	都市計画道路予定

図2-3-1 豊橋市の主な交通課題